

平成 24 年 1 月 19 日

各位

沢井製薬株式会社

## 患者さん・医師・薬剤師 対象調査報告 ～ジェネリックの環境変化 患者さんの 58.1%が依頼・推薦を体験～

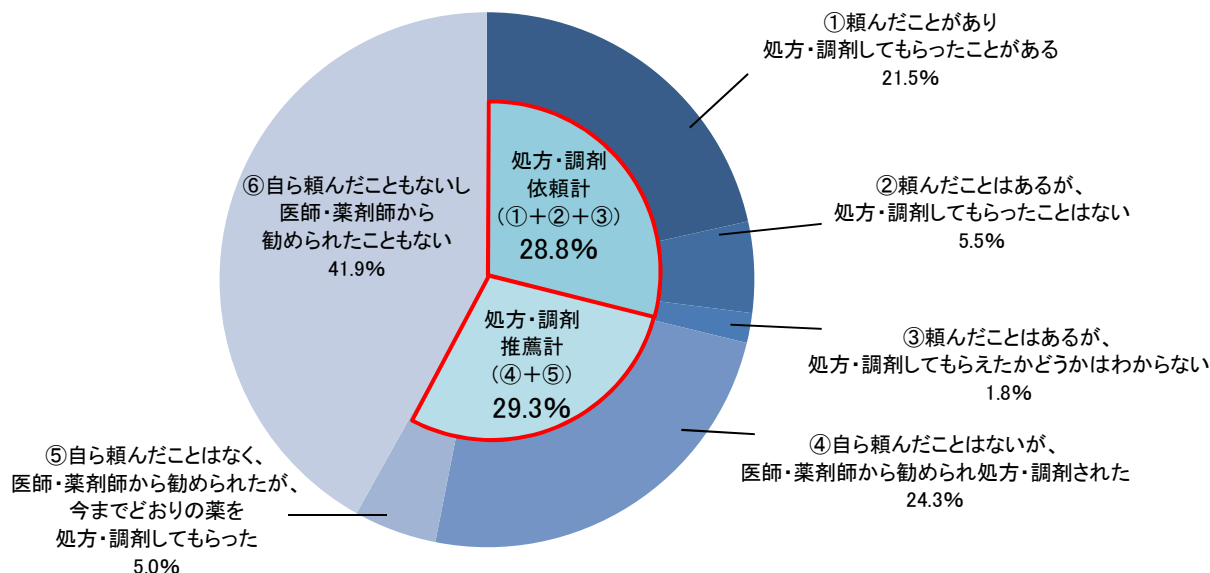
沢井製薬株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：澤井光郎）は、平成 23 年 11 月 4 日から 6 日の 3 日間、過去 3 ヶ月以内に薬を処方・調剤された患者さん 400 名、医師 300 名、薬剤師 300 名を対象に、ジェネリック医薬品に対する意識調査を実施いたしました。

（本調査は毎年実施しておりますが、今回から対象に医師を追加いたしました。）

### ■ 患者さんの約 6 割がジェネリック医薬品を依頼もしくは推薦された経験あり

医師・薬剤師に対してジェネリック医薬品を処方・調剤して欲しいと依頼した患者さん【グラフ 1：①+②+③】は 28.8%（前回：25.3%）、医師・薬剤師から勧められた患者さん【グラフ 1：④+⑤】は 29.3%（24.8%）となり、58.1%（50.1%）もの患者さんが医療現場でジェネリック医薬品を依頼もしくは推薦された経験があることがわかりました。一方、「自ら頼んだこともないし、医師・薬剤師から勧められたこともない」患者さんが 41.9%（49.9%）と、依然としてジェネリック医薬品を依頼もしくは推薦された経験のない方も多いことがわかりました。

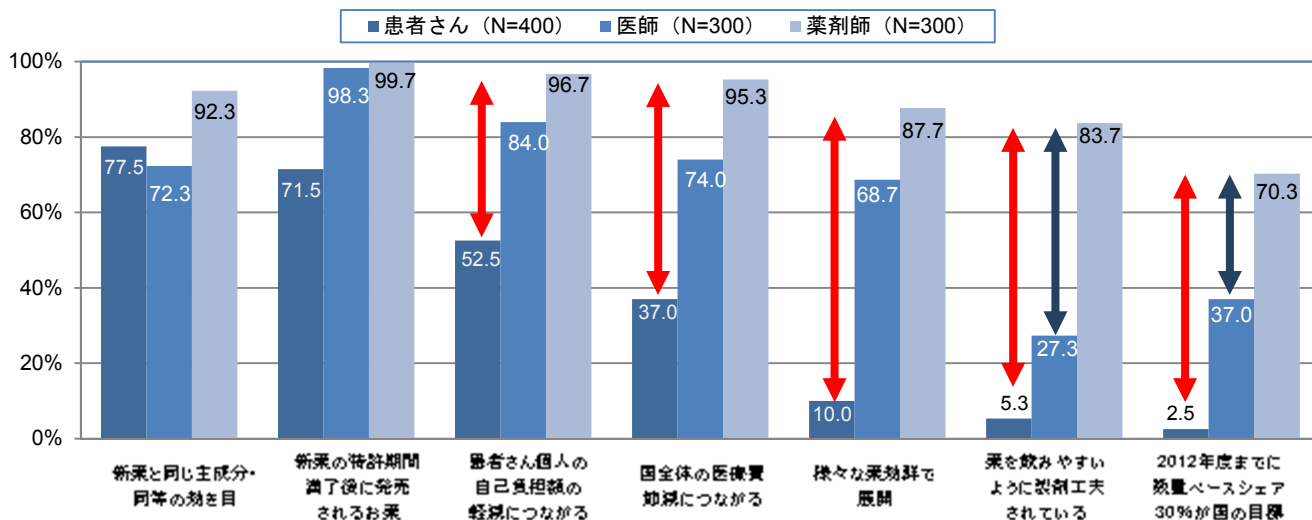
【グラフ 1】ジェネリック医薬品の処方・調剤依頼経験（患者さん対象）



### ■ ジェネリック医薬品の基本的な特徴に関する認知に差【グラフ 2】

患者さん、医師、薬剤師のジェネリック医薬品の特徴に関する認知度合を比較すると、「新薬と同じ主成分・同等の効き目」、「新薬の特許期間満了後に発売されるお薬」は、3 者とも 70%を超える高い認知となりました。一方、「患者さん個人の自己負担額の軽減につながる」、「国全体の医療費削減につながる」「様々な薬効群で展開」では差が見られ、さらに「薬を飲みやすいように製剤工夫されている」、「2012 年度までに数量シエアベース 30%が政府目標である」といった項目では、医師と薬剤師の間にも大きな差が見られ、医療従事者の間でもジェネリック医薬品の基本的な特徴認知に差があることがわかりました。

【グラフ2】ジェネリック医薬品の特徴認知（患者さん・医師・薬剤師対象）



沢井製薬は患者さんの自己負担額軽減、そして年々増大する国の医療費節減のために、患者さんに対してはジェネリック医薬品を正しくご理解いただけるよう啓発し、医療従事者の方々に向けては、より安心して処方・調剤していただけるよう情報提供活動に一層取り組んでまいります。

※調査はインターネットにて実施いたしました。（実査機関：楽天リサーチ）

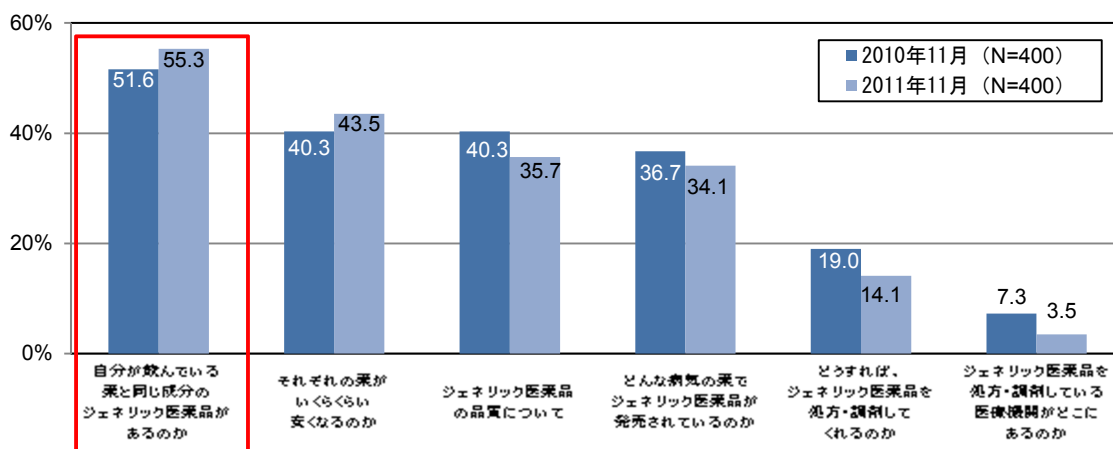
※その他の結果に関しては、次ページ以降の詳細資料をご覧ください。

〈ご参考〉 ご要望に応じて新設、「ジェネリックあるのかな？検索」

患者さんがジェネリック医薬品について調べたこと【グラフ3】は、「自分が飲んでいる薬と同じ成分のジェネリック医薬品があるのか」が55.3%と前回に続き最多となり、また当社にも同様のお問い合わせを1年間に約280件いただきました（2010年実績）。そのような患者さんのご要望にお応えすべく、コーポレートサイトへジェネリック医薬品の有無を検索できる機能「ジェネリックあるのかな？検索」（<http://www.sawai.co.jp/generic/search.html>）を製薬メーカーとして初めて導入いたしました。（右図）



【グラフ3】ジェネリック医薬品について調べたこと（患者さん対象）



◆お問い合わせ先◆

沢井製薬株式会社 戦略企画部 広報グループ  
 TEL：06-6105-5718／E-mail：[koho@sawai.co.jp](mailto:koho@sawai.co.jp)



**【ジェネリック医薬品】  
一般患者におけるジェネリックへの意識  
2011年11月 患者調査**

2012年1月19日

**沢井製薬株式会社**

ジェネリック医薬品に関する意識、処方・調剤状況を定点観測として時系列で比較する。  
また、2008年4月の処方せん様式の変更から3年以上を経過し、  
「ジェネリック医薬品」についての説明有無、処方・調剤状況がどのように変化したかを検証する。

## 患者調査

調査対象:	過去3ヶ月以内に医療機関で自分のために薬を処方・調剤してもらった30～60代男女(歯科・眼科・小児科での処方・調剤は除く)
対象地区:	首都圏1都3県、関西2府4県
サンプル構成:	計400サンプル
調査項目:	・「ジェネリック医薬品」の名称認知・内容認知 ・「ジェネリック医薬品」の認知経路 ・「ジェネリック医薬品」の処方／調剤依頼傾向 など
調査手法:	インターネット調査(実査機関:楽天リサーチ)
調査期間:	2011年11月4日(金)～6日(日)
割付:	実際の市場状況に近づけるため、各年代を実際に「薬を服用している人」の構成比に近くなるように400サンプルの割付を行った

## 回答者の内訳

### 【内訳】

	N	%
全体	400	
男性	199	49.8%
女性	201	50.3%

	N	%
男性30代	40	10.0%
男性40代	44	11.0%
男性50代	48	12.0%
男性60代	67	16.8%
女性30代	49	12.3%
女性40代	47	11.8%
女性50代	52	13.0%
女性60代	53	13.3%

	N	%
東京都	102	25.5%
神奈川県	80	20.0%
埼玉県	43	10.8%
千葉県	42	10.5%
首都圏計	267	66.8%
大阪府	66	16.5%
兵庫県	37	9.3%
京都府	16	4.0%
奈良県	7	1.8%
滋賀県	6	1.5%
和歌山県	1	0.3%
関西圏計	133	33.2%

### 【調査内のジェネリック医薬品理解レベルに関して】

#### ■高レベル:

Q8で下記6項目すべてを認知している層

- ・お医者さんから処方されるお薬(医療用医薬品)
- ・新薬の特許期間満了後に発売されるお薬
- ・新薬と同じ主成分・同等の効き目
- ・薬価は新薬の2~7割である
- ・国全体の医療費節減につながる
- ・日本ではまだ約20%程度しか使用されていない

#### ■中レベル:

Q8で下記4項目すべてを認知している層

- ・お医者さんから処方されるお薬(医療用医薬品)
- ・新薬の特許期間満了後に発売されるお薬
- ・新薬と同じ主成分・同等の効き目
- ・薬価は新薬の2~7割である

#### ■低レベル:

高・中レベル以外の層

- Q1. 「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」をご存知ですか。(SA)
- Q2. (Q1で「知っている」「名前は知っている」とお答えの方へ)  
「ジェネリック医薬品」を、何で見聞きされますか。あてはまるものを全てお選びください。(MA)
- Q3. 「病気のこと」「薬のこと」「ジェネリック医薬品のこと」について、あなたは調べたことがありますか。(SA)
- Q4. 「病気のこと」「薬のこと」「ジェネリック医薬品のこと」について、あなたは普段どのようにして調べていますか。(SA)
- Q5. (Q3で「ジェネリック医薬品について調べたことがある」とお答えの方へ)  
「ジェネリック医薬品」についてどのようなことを調べましたか。あてはまるものを全てお選びください。(MA)
- Q6. これまで、「ジェネリック医薬品」のことを誰かと話題にされたことはありますか。(SA)
- Q7. (Q6で「話題にしたことがある」とお答えの方へ)  
「ジェネリック医薬品」を話題にされた際、どのようなことが話題になりましたか。  
どのようなことでも構いませんので、できるだけ詳しくお答えください。(FA)
- Q8. 「ジェネリック医薬品」には次のような特徴があります。ご存知の事柄をすべてお選びください。(MA)
- Q9. 「ジェネリック医薬品」について、もっと具体的に知りたいことはなんでしょうか。あてはまるものをすべてお選びください。(MA)
- Q10. あなたご自身のお薬代について、1ヶ月当たりの平均金額をお答えください。(FA)

- Q11. あなたご自身のお薬代が、1ヶ月当たりいくら位安くなったら、「ジェネリック医薬品」に変更したいと思いますか。(FA)
- Q12. これまでに、医師や薬剤師に対して「ジェネリック医薬品を処方・調剤して欲しい」と頼んだことはありますか。(SA)
- Q13. (Q12で「頼んだことがない」とお答えの方へ)  
「ジェネリック医薬品」の処方・調剤を頼まない理由についてあてはまるものをすべてお選びください。(MA)
- Q14. 今後機会があれば、医師や薬剤師に「ジェネリック医薬品」のことをたずねてみたいと思いますか。(SA)
- Q15. 以下の説明文を読んでお答えください。  
病院・薬局で薬を処方してもらう際、処方せんに医師のサインがなければ(※)、  
患者さんは薬剤師と相談して「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)に変更することができます。  
※「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)に変更が不可の場合のみ医師がサインをします。  
あなたはこのことをご存知でしたか。(SA)
- Q16. 2008年4月以降に、医療機関で薬をもらう際、薬剤師から「ジェネリック医薬品」についての説明を受けましたか。(SA)
- Q17. 最近新聞やテレビなどで「国の医療費増大」による皆保険制度の是非や、企業健保組合の赤字などの問題がクローズアップされていますが、あなたはこの「国の医療費増大」の問題について危機感を感じますか。(SA)

※SA：単一回答

※MA：複数回答

※FA：自由回答

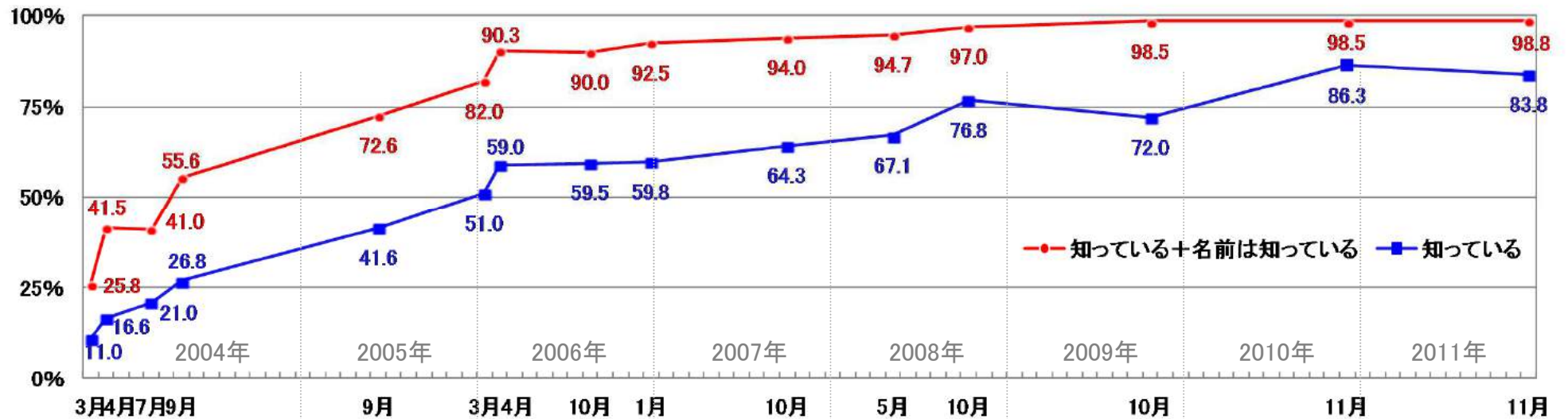


# 「ジェネリック医薬品」の認知状況

※08年10月以降、対象者の割付が変更されているため、08年05月以前の時系列比較は参考

## Q1.「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」をご存知ですか。(SA)

「ジェネリック医薬品」の名称認知は前回から微増の98.8%。ほぼ100%に近い認知で推移。  
認知計(「知っている」+「名前は知っている」)は前回より2.5Pt下がって、83.8%だった。



(%)	N	知っている											名前は知っている											認知計 (知っている+名前は知っている 計)										
		05年		06年			07年		08年		09年		10年		11年		05年		06年			07年		08年		09年		10年		11年				
		9月	3月	4月	10月	1月	10月	5月	10月	10月	11月	11月	9月	3月	4月	10月	1月	10月	5月	10月	10月	11月	11月	9月	3月	4月	10月	1月	10月	5月	10月	10月	11月	11月
全体	400	41.6	51.0	59.0	59.5	59.8	64.3	67.1	76.8	72.0	86.3	83.8	31.0	31.0	31.3	30.5	32.8	29.8	27.6	20.3	26.5	12.3	15.0	72.6	82.0	90.3	90.0	92.5	94.0	94.7	97.0	98.5	98.5	98.8
男性30代	40	51.9	52.0	56.0	56.0	66.0	68.0	71.2	81.6	79.5	80.0	77.5	28.8	26.0	32.0	30.0	24.0	22.0	19.2	18.4	20.5	20.0	22.5	80.7	78.0	88.0	86.0	92.0	90.0	90.4	100.0	100.0	100.0	100.0
男性40代	44	38.5	50.0	60.0	62.0	70.0	62.0	65.4	80.6	75.0	92.9	90.9	34.6	40.0	30.0	32.0	18.0	22.0	28.8	19.4	22.5	4.8	9.1	73.1	90.0	90.0	94.0	88.0	84.0	94.2	100.0	97.5	97.6	100.0
男性50代	48	50.0	46.0	62.0	68.0	74.0	60.0	78.8	76.0	83.3	89.4	87.5	19.2	34.0	34.0	22.0	22.0	40.0	15.4	20.0	14.6	6.4	10.4	69.2	80.0	96.0	90.0	96.0	100.0	94.2	96.0	97.9	95.7	97.9
男性60代	67	50.0	64.0	62.0	54.0	56.0	64.0	69.2	86.0	78.7	90.3	88.1	21.2	24.0	28.0	40.0	36.0	32.0	25.0	12.3	21.3	8.1	11.9	71.2	88.0	90.0	94.0	92.0	96.0	94.2	98.2	100.0	98.4	100.0
女性30代	49	23.1	52.0	52.0	62.0	50.0	72.0	61.5	71.9	62.3	83.3	85.7	48.1	32.0	38.0	28.0	46.0	26.0	38.5	26.3	34.0	16.7	14.3	71.2	84.0	90.0	90.0	96.0	98.0	100.0	98.2	96.2	100.0	100.0
女性40代	47	34.6	44.0	52.0	56.0	62.0	64.0	61.5	68.2	67.4	78.0	83.0	40.4	34.0	38.0	32.0	34.0	28.0	34.6	25.0	32.6	22.0	14.9	75.0	78.0	90.0	88.0	96.0	92.0	96.2	93.2	100.0	100.0	97.9
女性50代	52	50.0	60.0	56.0	56.0	50.0	52.0	57.7	75.4	63.3	91.7	76.9	23.1	20.0	32.0	34.0	44.0	44.0	36.5	21.1	36.7	6.3	21.2	73.1	80.0	88.0	90.0	94.0	96.0	94.2	96.5	100.0	97.9	98.1
女性60代	53	34.6	40.0	72.0	62.0	48.0	72.0	71.2	75.4	67.7	83.6	79.2	32.7	38.0	18.0	26.0	38.0	24.0	23.1	19.7	29.0	14.8	17.0	67.3	78.0	90.0	88.0	86.0	96.0	94.2	95.1	96.8	98.4	96.2

\*N数は11年11月調査

は前回調査より5Pt以上アップ



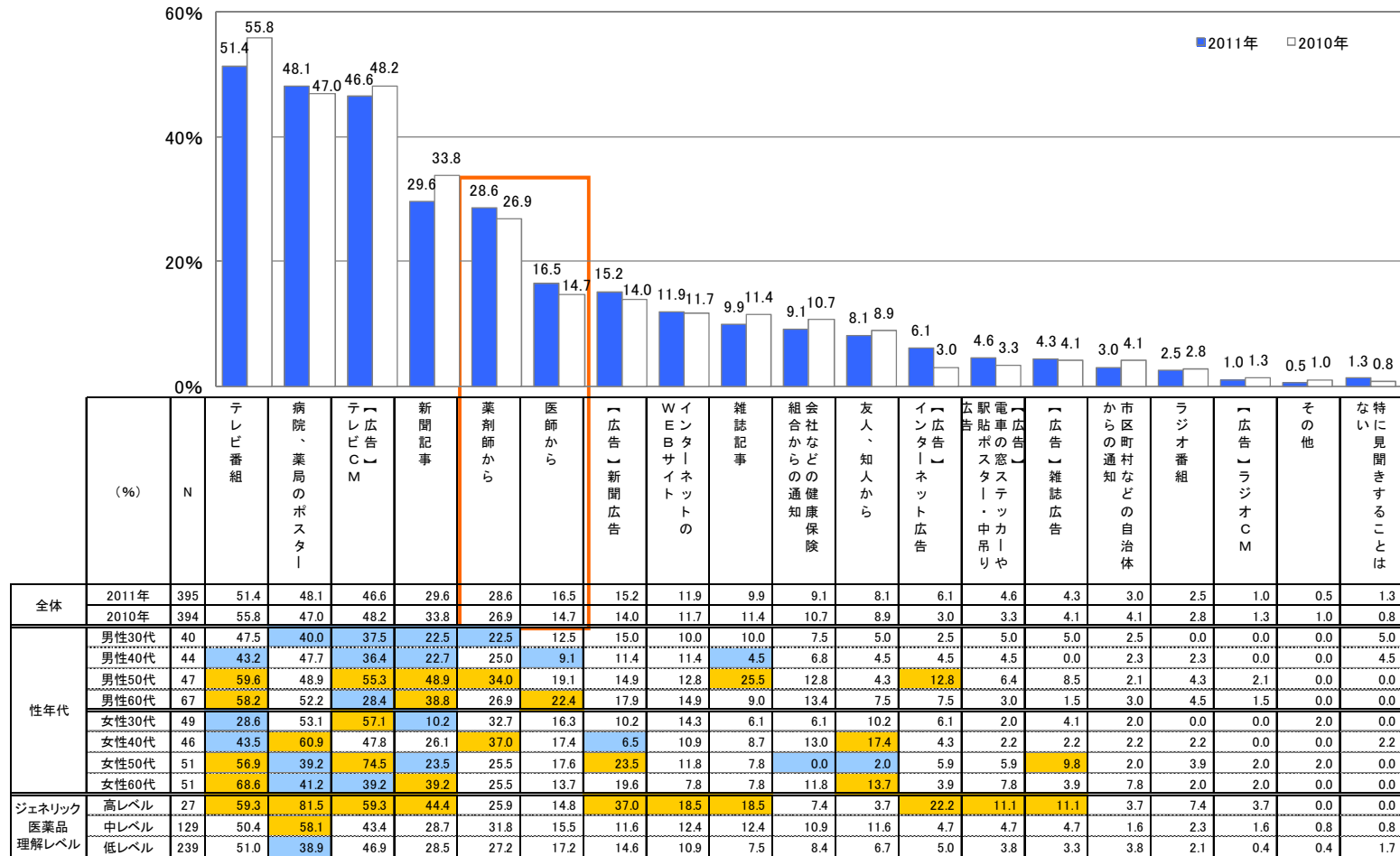


# 「ジェネリック医薬品」の認知機会

Q1で「知っている」「名前を知っている」とお答えの方へ

Q2.あなたは「ジェネリック医薬品」のことを、何で見聞きされますか？あてはまるものを全てお選びください。(MA)

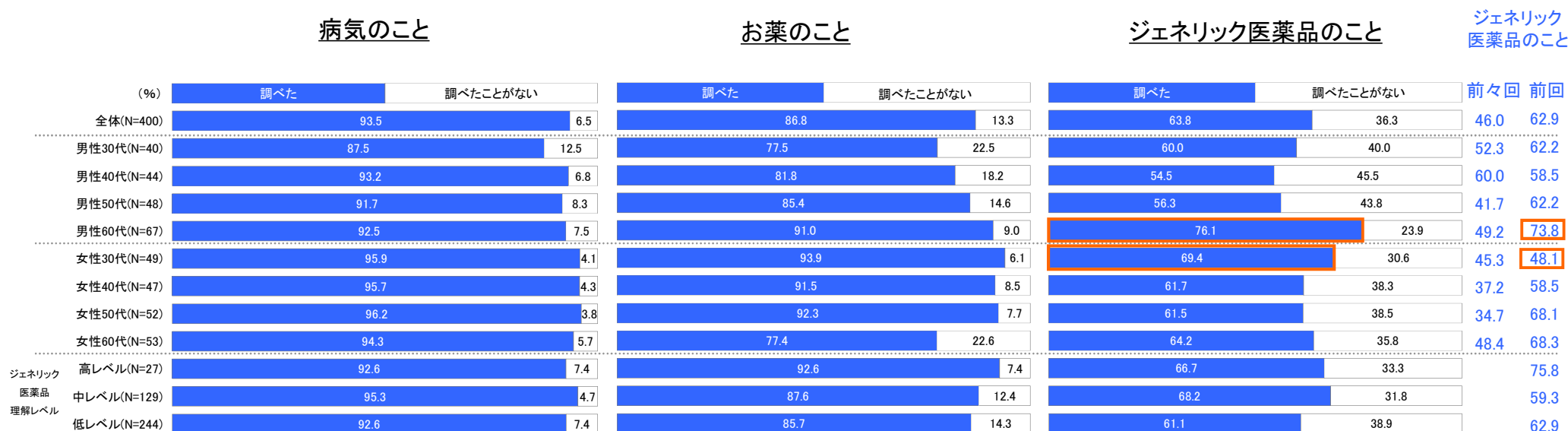
テレビ番組が最も高く51.4%、次いで病院・薬局のポスター48.1%、テレビCMの46.6%と続いている。「薬剤師から」と「医師から」が前回より2Pt程度上昇した。



# 「ジェネリック医薬品」について調べた経験の有無

Q3.「病気のこと」「薬のこと」「ジェネリック医薬品のこと」について、あなたは調べたことがありますか。(MA)

「病気のこと」、「薬のこと」について調べたことがある人は、全体でそれぞれ90%前後と高くなっている。「ジェネリック医薬品のこと」については、63.8%の人が調べたことがあると回答。前回から微増となった。男性60代では、76.1%の人が「ジェネリック医薬品のこと」について調べており、関心が高い傾向にある。女性30代が69.4%と前回より21.3Ptアップとなった。全ての年代で6割前後の関心がある。

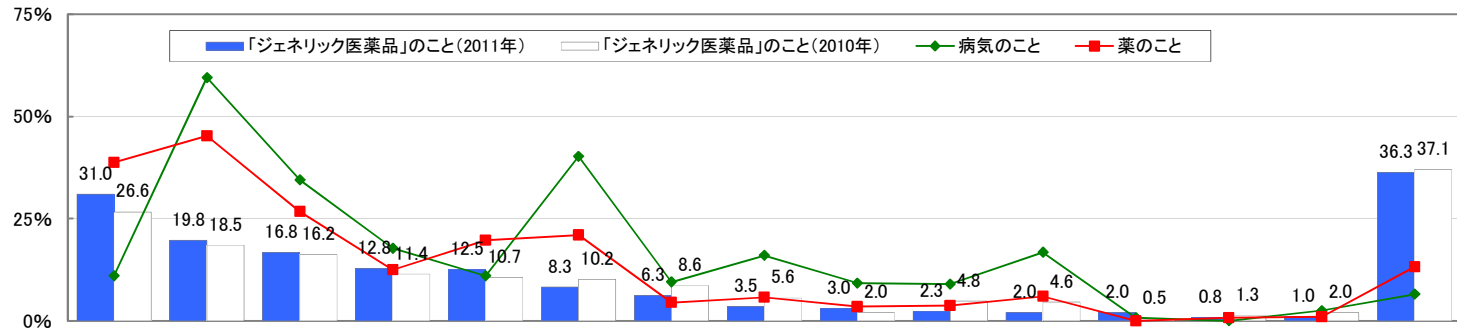


# 「ジェネリック医薬品」について調べた方法

Q3で「調べたことがある」とお答えの方へ

Q4.「病気のこと」「薬のこと」「ジェネリック医薬品のこと」について、あなたは普段どのようにして調べていますか。(MA)

「病気のこと」については「医師に聞く」が59.5%、「疾患・治療法のWEBサイト」が40.3%と高く、  
 「薬のこと」については「医師に聞く」が45.3%、「薬剤師に聞く」が38.8%で高くなっている。  
 「ジェネリック医薬品のこと」については「薬剤師に聞く」が31.0%で最も高く、前回より4.4Pt増加している。



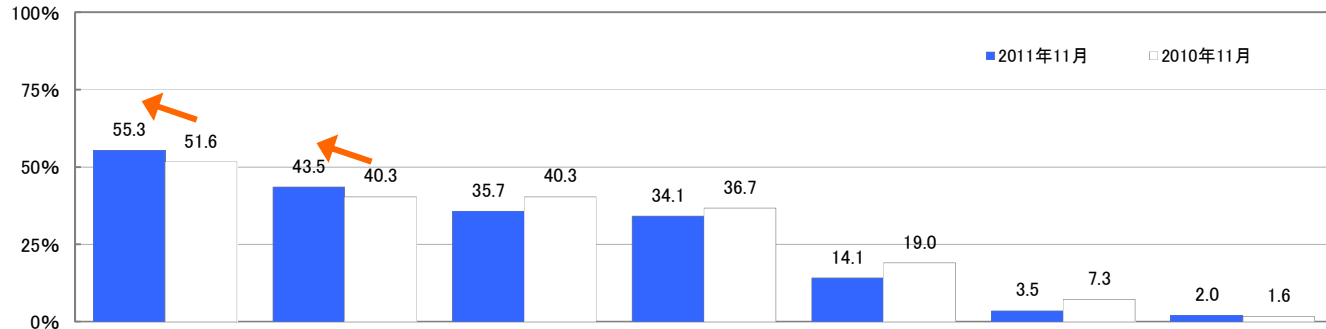
性別	年齢	理解レベル	N	調べた方法 (%)															
				薬剤師に聞く	医師に聞く	WEBサイトのほか	設置された薬局	製薬メーカーのWEBサイト	疾患・治療法のWEBサイト	新聞	友人、知人に聞く	協会・患者会など	雑誌	本	健康保険組合に	製薬メーカーに	その他	調べたことはない	
全体	病気のこと		400	11.0	59.5	34.5	17.8	11.0	40.3	9.5	16.0	9.3	9.0	16.8	0.8	0.0	2.5	6.5	
	薬のこと		400	38.8	45.3	26.8	12.5	19.8	21.0	4.5	5.8	3.5	3.8	6.0	0.0	0.8	1.0	13.3	
	「ジェネリック医薬品」のこと(2011年)		400	31.0	19.8	16.8	12.8	12.5	8.3	6.3	3.5	3.0	2.3	2.0	2.0	0.8	1.0	36.3	
	「ジェネリック医薬品」のこと(2010年)		394	26.6	18.5	16.2	11.4	10.7	10.2	8.6	5.6	2.0	4.8	4.6	0.5	1.3	2.0	37.1	
性年代	男性30代		40	25.0	17.5	17.5	7.5	7.5	5.0	5.0	2.5	7.5	5.0	2.5	2.5	0.0	0.0	40.0	
	男性40代		44	22.7	11.4	11.4	15.9	4.5	4.5	0.0	4.5	2.3	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	45.5	
	男性50代		48	22.9	16.7	20.8	6.3	14.6	4.2	8.3	0.0	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8	
	男性60代		67	34.3	26.9	17.9	19.4	16.4	10.4	6.0	1.5	4.5	1.5	3.0	4.5	0.0	3.0	23.9	
	女性30代		49	32.7	20.4	24.5	12.2	18.4	16.3	0.0	10.2	6.1	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	30.6	
	女性40代		47	36.2	21.3	21.3	6.4	14.9	8.5	2.1	8.5	0.0	2.1	2.1	0.0	0.0	2.1	38.3	
ジェネリック医薬品理解レベル	高レベル		27	29.6	25.9	29.6	18.5	18.5	7.4	11.1	0.0	3.7	7.4	0.0	3.7	3.7	7.4	33.3	
	中レベル		129	38.8	22.5	20.9	15.5	17.1	7.8	9.3	3.9	0.8	1.6	3.1	0.8	0.0	0.8	31.8	
	低レベル		244	27.0	17.6	13.1	10.7	9.4	8.6	4.1	3.7	4.1	2.0	1.6	2.5	0.8	0.4	38.9	

# 「ジェネリック医薬品」について調べたこと

Q3で「ジェネリック医薬品について調べたことがある」とお答えの方へ

## Q5. 「ジェネリック医薬品」について、どのようなことを調べましたか。あてはまるものを全てお選びください。(MA)

「自分の薬と同成分のものがあるか」が前回より3.7Ptアップの55.3%でトップ。  
次いで「いくら安くなるか」が3.2Ptアップの43.5%で続いている。



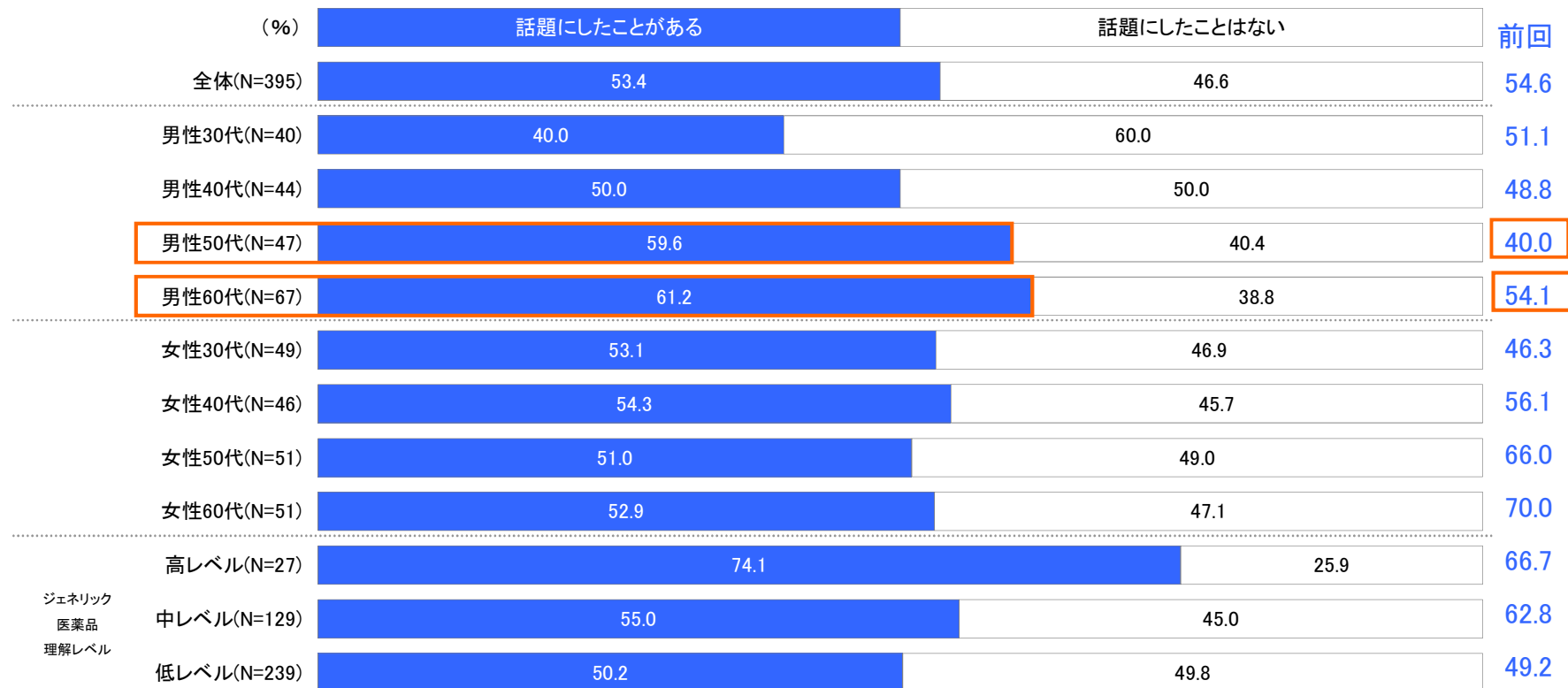
調査項目	性別・年代	N	調査結果 (%)							
			自分の薬と同成分のジェネリック医薬品があるのか	それぞれの薬がいくらか安くなるのか	ジェネリック医薬品の品質について	どんな病気の薬でジェネリック医薬品が発売されているのか	どうすれば、ジェネリック医薬品を処方・調剤してくれるのか	ジェネリック医薬品を処方・調剤している医療機関がどこにあるのか	その他	
全体	2010年11月	248	51.6	40.3	40.3	36.7	19.0	7.3	1.6	
	2011年11月	255	55.3	43.5	35.7	34.1	14.1	3.5	2.0	
性年代	男性30代	24	41.7	50.0	29.2	41.7	8.3	0.0	0.0	
	男性40代	24	41.7	45.8	41.7	25.0	8.3	4.2	0.0	
	男性50代	27	74.1	37.0	25.9	29.6	11.1	0.0	0.0	
	男性60代	51	68.6	58.8	31.4	35.3	19.6	5.9	2.0	
	女性30代	34	41.2	35.3	44.1	29.4	23.5	5.9	5.9	
	女性40代	29	41.4	37.9	34.5	31.0	6.9	0.0	0.0	
	女性50代	32	62.5	43.8	34.4	37.5	15.6	6.3	3.1	
	女性60代	34	58.8	32.4	44.1	41.2	11.8	2.9	2.9	
ジェネリック医薬品理解レベル	高レベル	18	77.8	44.4	44.4	38.9	33.3	16.7	5.6	
	中レベル	88	63.6	46.6	37.5	31.8	19.3	3.4	2.3	
	低レベル	149	47.7	41.6	33.6	34.9	8.7	2.0	1.3	

■ は全体より5Pt以上      ■ は全体より5Pt以下

# 「ジェネリック医薬品」についての話題の有無

Q6.これまで、「ジェネリック医薬品」のことを誰かと話題にされたことはありますか。(SA)

「ジェネリック医薬品」を話題にしたことがある人は、全体の53.4%で前回に引き続き過半数を超えている。  
特に男性50代、60代では前回より大幅にアップしている。



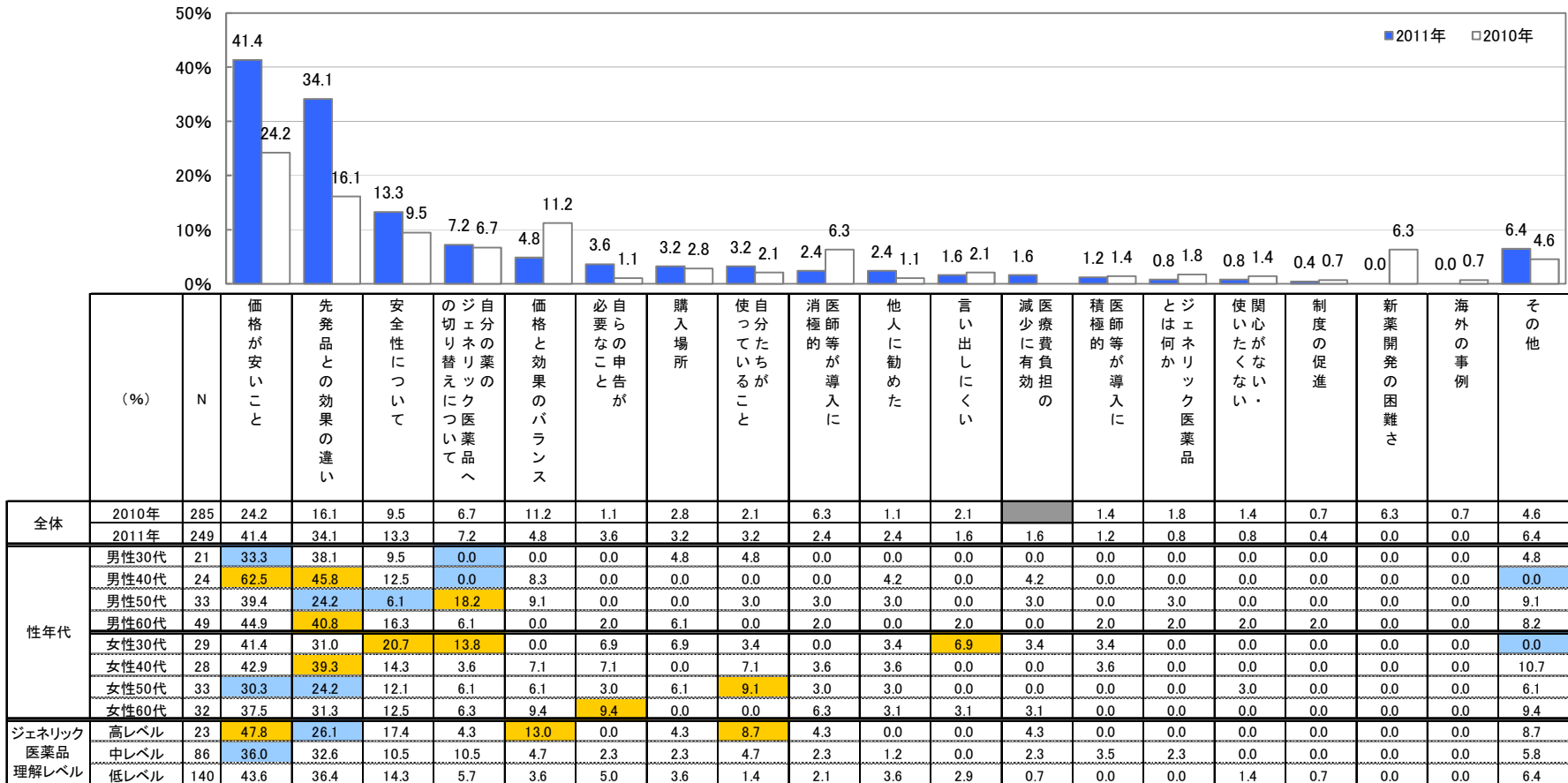
ジェネリック  
医薬品  
理解レベル

# 「ジェネリック医薬品」の話題の内容

Q6で「ジェネリック医薬品について話題にしたことがある」とお答えの方へ

Q7. 「ジェネリック医薬品」を話題にされた際、どのようなことが話題になりましたか。どのようなことでも構いませんので、できるだけ詳しくお答えください。(FA)

話題の内容は、「価格が安いこと」が最も多く41.4%(前回24.2%)、次に「先発品との効果の違い」が34.1%(16.1%)と続き、2者は前回より大幅に上昇した。



は全体より5Pt以上

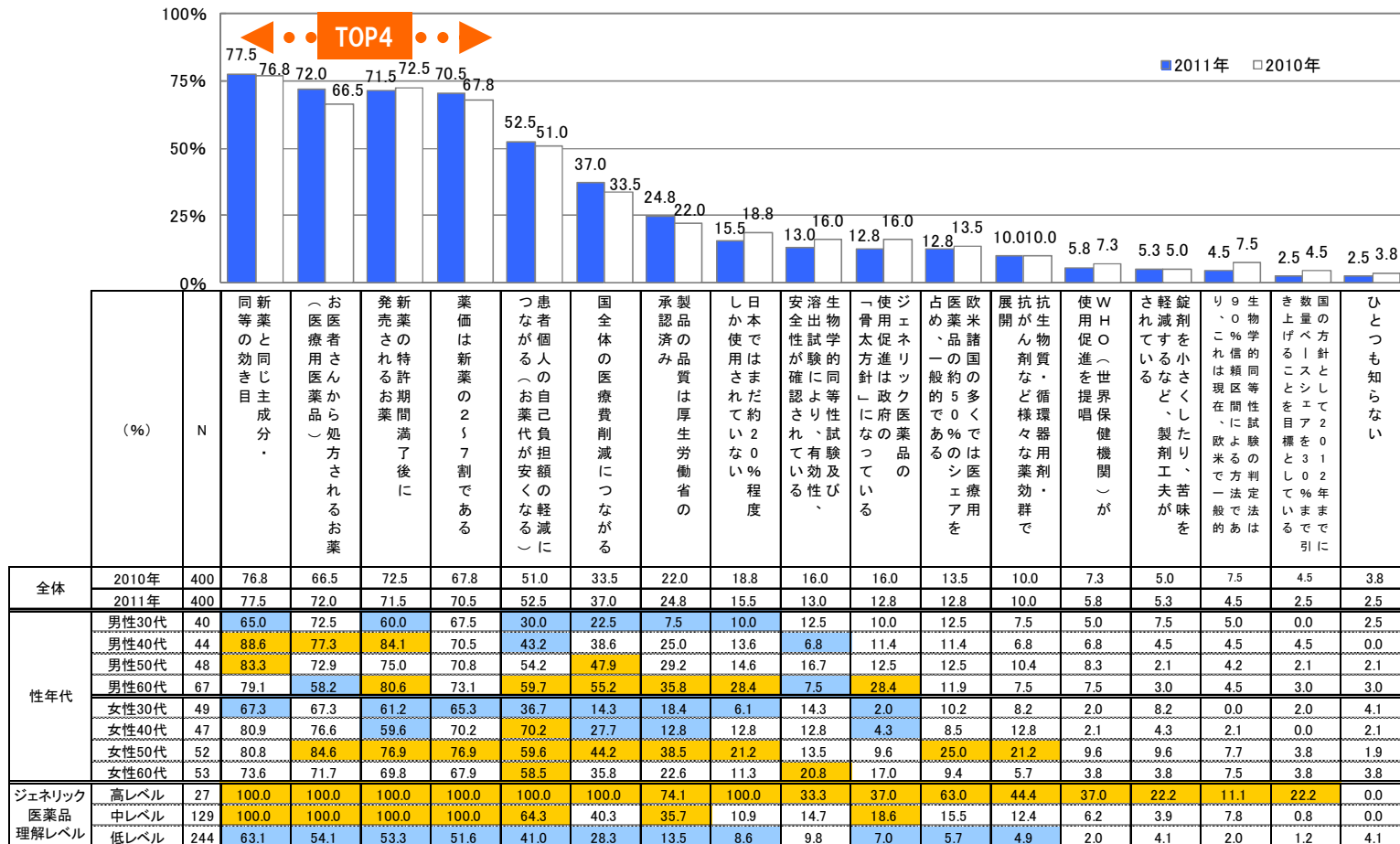
は全体より5Pt以下



# 「ジェネリック医薬品」の特徴認知

Q8. 「ジェネリック医薬品」には次のような特徴があります。ご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)

「新薬と同じ主成分・効き目」が77.5%でトップ。以下「医療用医薬品」72.0%、「特許終了後に発売」71.5%、「薬価について」70.5%とTOP4の項目は70%を超えており、他の項目と差が開いている。



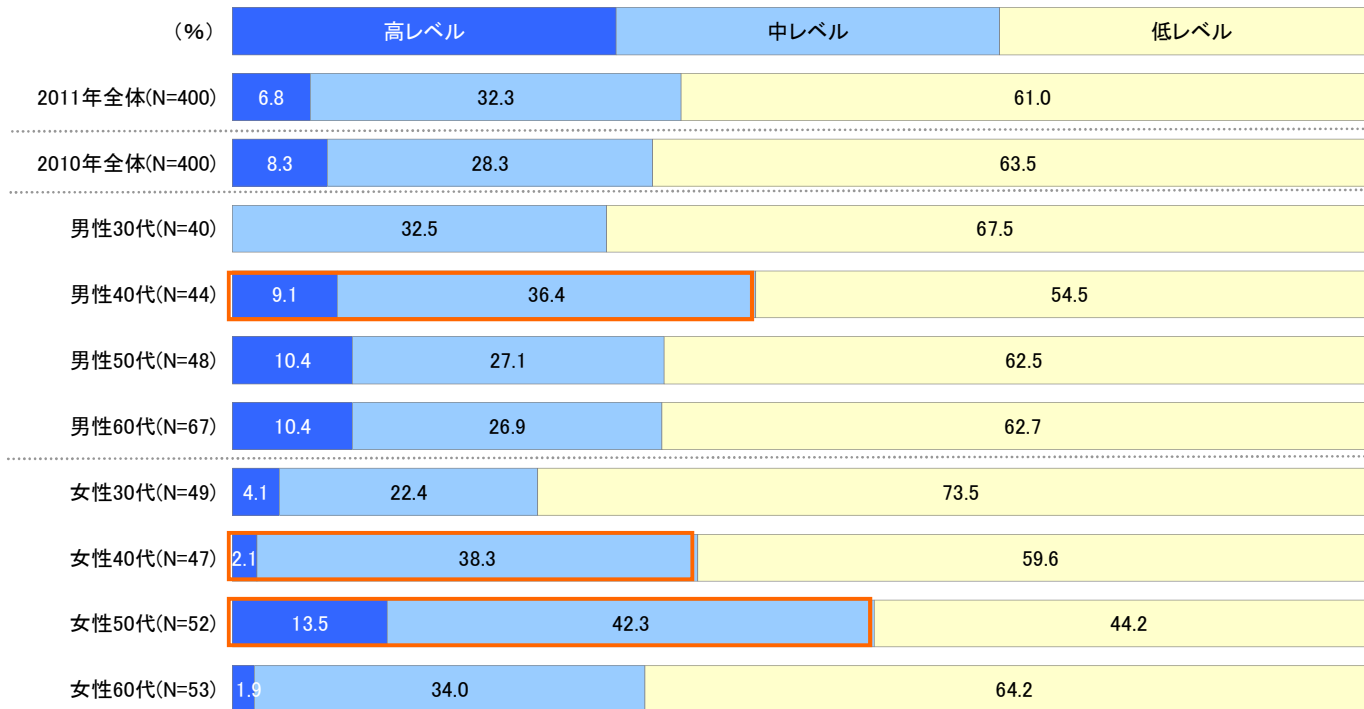
は全体より5Pt以上 是全体より5Pt以下



# 「ジェネリック医薬品」の理解レベル 層別状況

Q8.「ジェネリック医薬品」には次のような特徴があります。ご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)

主要6項目をすべて認知している「理解高レベル層」は全体の6.8%で前回より1.5Ptダウンしたが、4項目を認知している「中レベル層」は32.3%で、前回より5.0Ptアップしている。男性40代、女性40代、女性50代で「高レベル層+中レベル層」が多くなっている。



## ■高レベル:

Q8で下記6項目すべてを認知している層

- ・お医者さんから処方されるお薬(医療用医薬品)
- ・新薬の特許期間満了後に発売されるお薬
- ・新薬と同じ主成分・同等の効き目
- ・薬価は新薬の2~7割である
- ・国全体の医療費削減につながる
- ・日本ではまだ約20%程度しか使用されていない

## ■中レベル:

Q8で下記4項目すべてを認知している層

- ・お医者さんから処方されるお薬(医療用医薬品)
- ・新薬の特許期間満了後に発売されるお薬
- ・新薬と同じ主成分・同等の効き目
- ・薬価は新薬の2~7割である

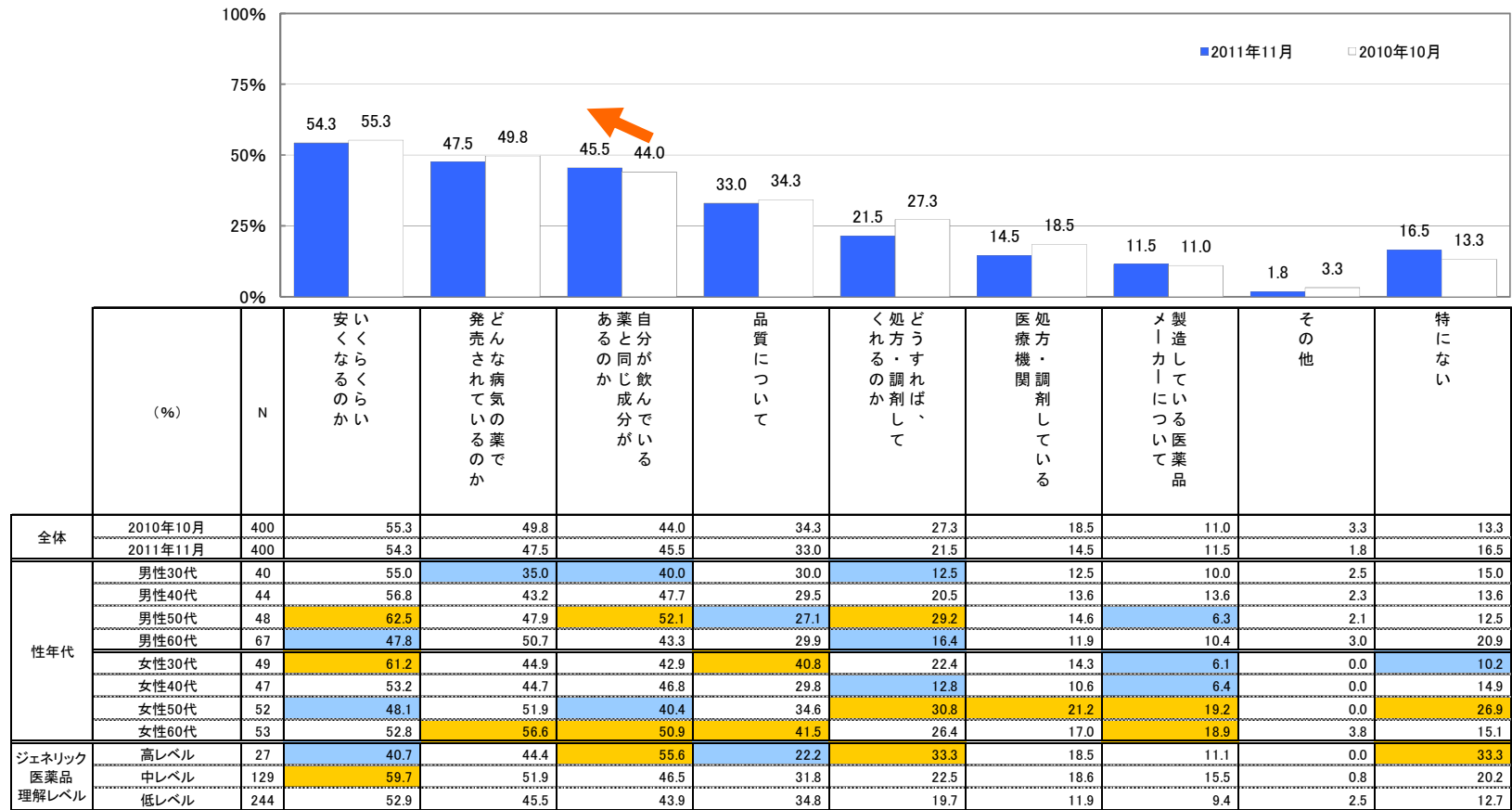
## ■低レベル:

高・中レベル以外の層

# 「ジェネリック医薬品」について知りたいこと

Q9. 「ジェネリック医薬品」について、もっと具体的に知りたいことはなんですか？あてはまるものをすべてお選びください。(MA)

全体的に前回よりスコアが低下しているが、「自分の薬と同じ成分があるか」は前回より1.5Pt増加。



■ は全体より5Pt以上 □ は全体より5Pt以下

Q10. あなたご自身のお薬代について、1ヶ月当たりの平均金額をお答えください。(FA)

「1,000～2,000円未満」が25.5%、「2,000～3,000円未満」が18.3%となっており、平均額は3,600円だった。  
 性年代別では男性60代と女性50代の平均が5,000円台を超えた。

(%)	1,000円未満	2,000円未満	3,000円未満	4,000円未満	5,000円未満	6,000円未満	6,000円以上	平均(円)
全体(N=400)	12.8	25.5	18.3	12.5	6.8	10.0	14.3	3,600
男性30代(N=40)	10.0	40.0	17.5	10.0	5.0	10.0	7.5	2,418
男性40代(N=44)	9.1	25.0	18.2	11.4	6.8	20.5	9.1	3,455
男性50代(N=48)	12.5	29.2	16.7	20.8	6.3	8.3	6.3	2,862
男性60代(N=67)	4.5	20.9	14.9	11.9	11.9	11.9	23.9	5,175
女性30代(N=49)	22.4	28.6	20.4	12.2	4.1	4.1	8.2	2,276
女性40代(N=47)	29.8	34.0	12.8	6.4	2.1	4.3	10.6	2,537
女性50代(N=52)	11.5	19.2	25.0	13.5	7.7	5.8	17.3	5,090
女性60代(N=53)	5.7	13.2	20.8	13.2	7.5	15.1	24.5	3,994
高レベル(N=27)	3.7	25.9	22.2	18.5	7.4	11.1	11.1	3,270
中レベル(N=129)	12.4	20.9	20.2	14.0	4.7	12.4	15.5	4,120
低レベル(N=244)	13.9	27.9	16.8	11.1	7.8	8.6	13.9	3,362

ジェネリック  
 医薬品  
 理解レベル

# 「ジェネリック医薬品」希望月間ダウン額

Q11.あなたご自身のお薬代が、1ヶ月当たりいくら位安くなったら、「ジェネリック医薬品」に変更したいと思いますか。(FA)

全体では「1,000円未満」が最も多く38.5%、次いで「1,000～2,000円未満」で31.0%で、この2層で7割を占めている。平均は1,630円で、前回より700円近く下がった。  
男性60代では希望額が比較的高く、平均で2,050円となっている。

(%)	1,000円未満	2,000円未満	3,000円未満	4,000円未満	5,000円未満	6,000円未満	6,000円以上	平均 (円)	前回 平均 (円)
全体(N=400)	38.5	31.0	13.5	8.0	1.0	4.5	3.5	1,630	2,310
男性30代(N=40)	47.5	22.5	10.0	10.0	2.5	7.5		1,833	1,529
男性40代(N=44)	36.4	34.1	13.6	9.1	4.5	2.3		1,443	1,676
男性50代(N=48)	35.4	41.7	10.4	6.3	6.3			1,827	5,450
男性60代(N=67)	23.9	34.3	17.9	9.0	1.5	9.0	4.5	2,050	2,565
女性30代(N=49)	49.0	32.7	6.1	8.2	2.0	2.0		1,202	1,002
女性40代(N=47)	55.3	27.7	6.4	4.3	4.3	2.1		1,160	2,832
女性50代(N=52)	32.7	34.6	15.4	3.8	1.9	7.7	3.8	1,766	2,023
女性60代(N=53)	35.8	18.9	24.5	13.2	3.8	3.8		1,613	1,675
ジェネリック 医薬品 理解レベル 高レベル(N=27)	33.3	37.0	11.1	11.1	3.7	3.7		1,526	2,842
中レベル(N=129)	38.8	27.1	17.8	6.2	0.8	5.4	3.9	1,736	2,769
低レベル(N=244)	38.9	32.4	11.5	8.6	1.2	4.1	3.3	1,586	2,036

※今回の「平均」は、男性60代(理解レベル低)で1名「999,999円」と書いた方がいた為、その1サンプルを除いて算出した。

# 「ジェネリック医薬品」希望月間ダウン率

※Q10の月平均お薬代と、Q11の希望月間ダウン額よりダウン率を算出

Q11.あなたご自身のお薬代が、1ヶ月当たりいくら位安くなったら、「ジェネリック医薬品」に変更したいと思いますか。(FA)

「50～60%未満」が最も多く、28.5%で、次いで「60～70%未満」が13.4%。  
平均では、42.4%<sup>(※)</sup>だった。男女50代の希望ダウン率が高くなっている。

	(%)										平均 (%)	前回 平均 (%)
	10%未満	～20%未満	～30%未満	～40%未満	～50%未満	～60%未満	～70%未満	～80%未満	～90%未満	90%以上		
全体(N=390)	3.3	6.4	12.6	12.9	10.0	28.5	13.4	2.6	0.5	9.8	42.4	51.1
男性30代(N=42)	2.5	5.0	12.5	10.0	5.0	35.0	15.0	2.5		12.5	43.9	47.9
男性40代(N=41)	4.8	9.5	14.3	9.5	9.5	33.3		11.9	4.8	2.4	40.1	53.8
男性50代(N=45)	2.2	13.0	17.4	10.9	28.3		10.9	4.3	2.2	10.9	45.2	63.2
男性60代(N=60)	1.5	7.6	16.7	19.7	13.6	15.2	7.6	4.5		13.6	38.6	46.8
女性30代(N=53)	6.3	2.1	10.4	16.7	4.2	37.5		10.4	2.1	10.4	43.3	48.0
女性40代(N=41)	4.5	6.8	6.8	9.1	9.1	31.8		18.2	2.3	11.4	43.2	48.7
女性50代(N=48)	3.9	5.9	9.8	7.8	5.9	33.3		23.5		9.8	47.6	56.3
女性60代(N=60)	3.8	11.5	15.4	9.6	19.2	21.2		11.5	1.9	5.8	38.4	46.8
ジェネリック 医薬品 理解レベル												
高レベル(N=31)	7.4	7.4	7.4	11.1	14.8	22.2		22.2		7.4	43.7	55.6
中レベル(N=110)	5.2	7.1	13.0	11.0	11.7	25.3		14.9	1.9	0.6	41.3	50.6
低レベル(N=249)	2.1	6.0	12.3	14.0	8.9	30.6		12.3	3.0	0.4	43.0	50.7

※今回の「平均」は「100%以上」を回答していた人は除いて算出した(N=355)。



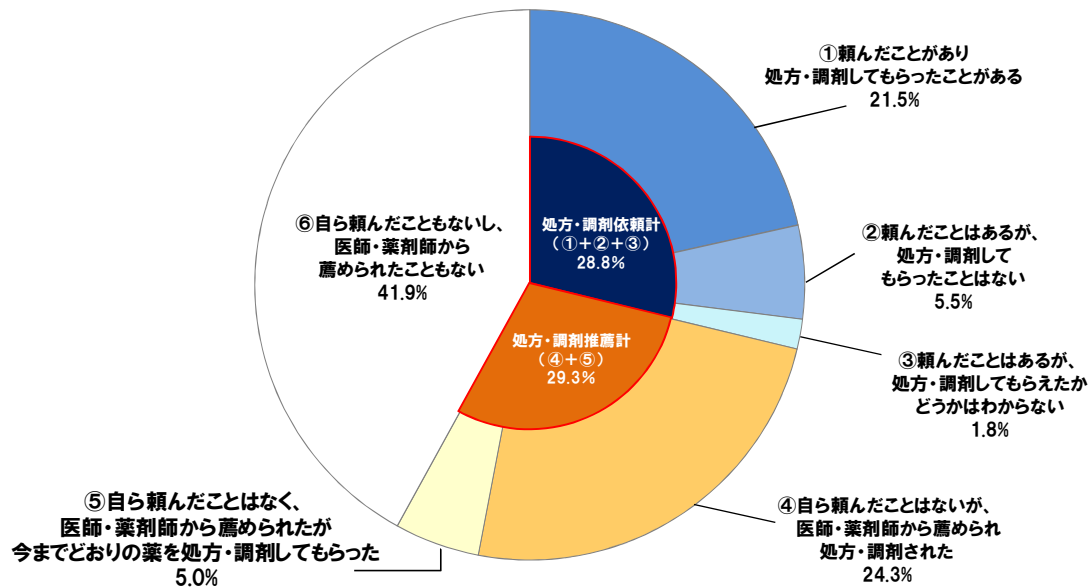
# 「ジェネリック医薬品」の処方・調剤依頼経験①

Q12.これまでに、医師や薬剤師に対して「ジェネリック医薬品を処方・調剤して欲しい」と頼んだことはありますか。(SA)

処方・調剤依頼計(グラフ①+②+③)は28.8%となり、前回より3.5Pt増加。

実際に処方されたことがある人(グラフ①+④)は45.8%で、前回より8.3Pt増加している。

一方、41.9%の患者さんが「自ら頼んだこともないし、医師・薬剤師から薦められたこともない」と回答。



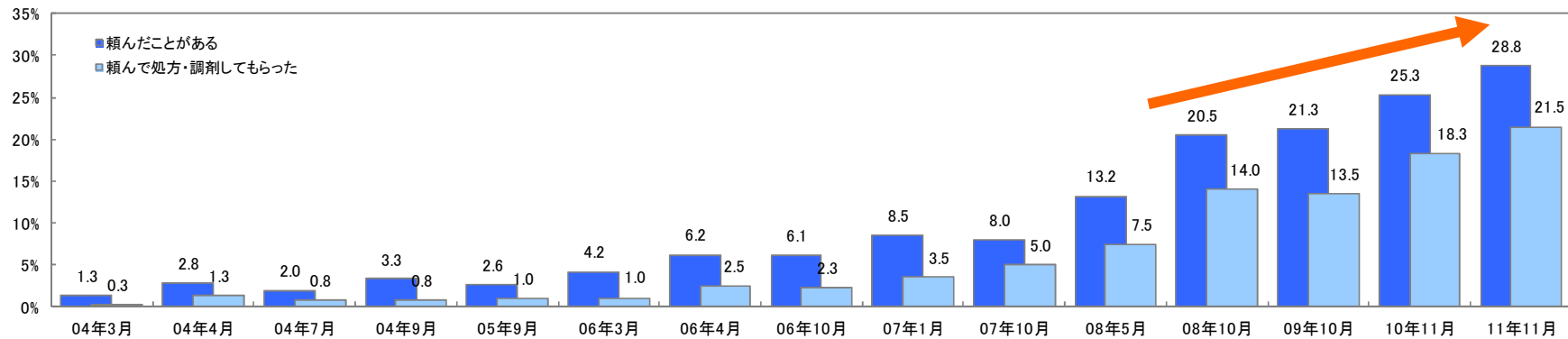
(%)	N	(①+②+③) 処方・調剤依頼計	(①+④) 処方・調剤された計	(①+④+⑤) 処方・調剤を勧められた計	(④+⑤) 処方・調剤を勧められた計
全体(09年10月)	400	21.3	28.0	34.5	21.0
全体(10年11月)	400	25.3	37.5	43.0	24.8
全体(11年11月)	400	28.8	45.8	50.8	29.3
11年-10年	差	+3.5	+8.3	+7.8	+4.5
		↓	↓	↓	↓
[11年11月 属性別]					
男性30代	40	30.0	37.5	42.5	17.5
男性40代	44	18.2	56.8	63.6	47.7
男性50代	48	35.4	45.8	45.8	16.7
男性60代	67	40.3	46.3	49.3	20.9
女性30代	49	20.4	49.0	59.2	42.9
女性40代	47	29.8	55.3	59.6	34.0
女性50代	52	23.1	42.3	48.1	28.8
女性60代	53	28.3	34.0	39.6	28.3
高レベル	27	37.0	51.9	51.9	22.2
中レベル	129	35.7	56.6	62.0	34.1
低レベル	244	24.2	39.3	44.7	27.5

# 「ジェネリック医薬品」の処方・調剤依頼経験②

※08年10月以降、対象者の割付が変更されているため、08年05月以前の時系列比較は参考

Q12.これまでに、医師や薬剤師に対して「ジェネリック医薬品」を処方・調剤して欲しい」と頼んだことはありますか。(SA)

「頼んだことがある」は28.8%、「頼んで処方・調剤してもらった」は21.5%でいずれも前回から上昇している。  
依頼傾向は引き続き順調に伸びている。



(%)	N	頼んで処方・調剤してもらった																				
		05年			06年			07年			08年			09年		10年		11年				
		9月	3月	4月	10月	1月	10月	5月	10月	10月	11月	11月	11月	11月	11月	11月						
全体	400	1.0	1.0	2.5	2.3	3.5	5.0	7.5	14.0	13.5	18.3	21.5										
男性30代	45	1.9	0.0	6.0	0.0	2.0	2.0	9.6	21.1	15.9	20.0	25.0										
男性40代	42	3.8	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	5.8	16.7	22.5	19.0	15.9										
男性50代	47	0.0	2.0	0.0	6.0	4.0	4.0	13.5	20.0	10.4	27.7	29.2										
男性60代	62	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	8.0	7.7	15.8	19.7	21.0	28.4										
女性30代	54	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	10.0	3.8	3.5	7.5	11.1	16.3										
女性40代	41	1.9	4.0	4.0	2.0	8.0	4.0	1.9	4.5	9.3	12.2	25.5										
女性50代	48	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	6.0	3.8	15.8	6.1	18.8	19.2										
女性60代	61	0.0	0.0	6.0	6.0	4.0	6.0	13.5	16.4	16.1	16.4	11.3										

\* N数は11年11月

前回調査より2Pt以上アップ

頼んだが処方・調剤なしor不明																		
05年			06年			07年			08年			09年			10年		11年	
9月	3月	4月	10月	1月	10月	5月	10月	10月	11月	11月	11月	11月	11月	11月	11月	11月		
1.7	3.3	3.8	3.8	5.0	3.0	5.8	6.5	7.8	7.0	7.3								
1.9	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	7.7	10.5	13.6	4.4	5.0								
3.8	4.0	2.0	4.0	4.0	4.0	3.8	8.3	10.0	4.8	2.3								
0.0	4.0	4.0	0.0	8.0	6.0	13.5	8.0	6.3	4.3	6.3								
5.8	6.0	10.0	10.0	8.0	4.0	7.7	7.0	4.9	8.1	11.9								
1.9	4.0	2.0	0.0	2.0	4.0	5.8	8.8	3.8	5.6	4.1								
0.0	2.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	6.8	4.7	7.3	4.3								
0.0	4.0	4.0	4.0	8.0	2.0	1.9	1.8	8.2	8.3	3.8								
0.0	2.0	6.0	2.0	4.0	2.0	5.8	3.3	11.3	11.5	17.0								

「処方依頼計」=「頼んで処方してもらった」+「頼んだが処方してもらっていない」+「頼んだが処方してもらったかは不明」



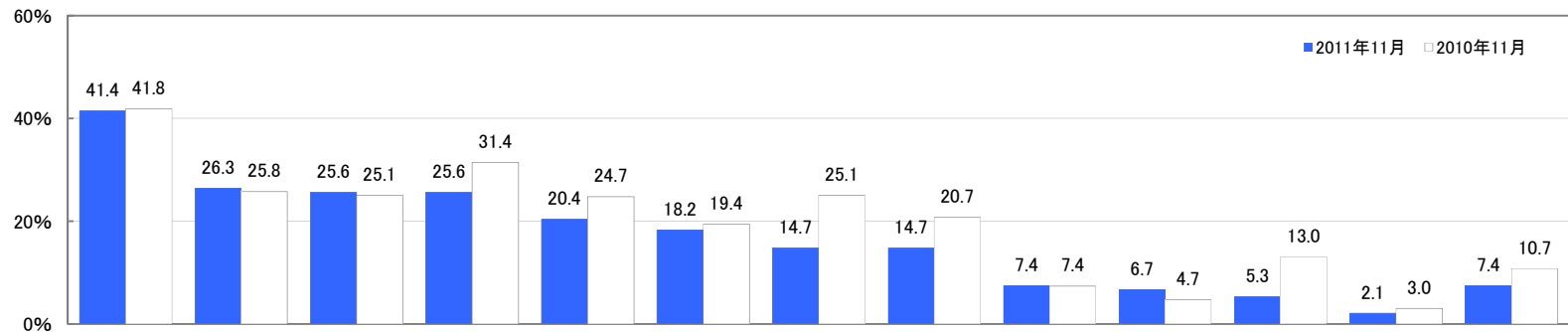


# 「ジェネリック医薬品」処方・調剤依頼をしない理由

Q11で「頼んだことはない」とお答えの方へ

Q13. 「ジェネリック医薬品」の処方・調剤を頼まない理由について、あてはまるものをすべてお選びください。(MA)

前回と変わらず「特に何も言われなから」が41.4%でトップ。以下、「ジェネリックを頼むタイミングがわからない」、「何と言って頼むべきかわからない」、「対応するジェネリックがあるかわからないから」と続く。



理由	N	理由													
		特に何も言われなから	ジェネリックを頼むタイミングがわからない	何と言って頼むべきかわからない	対応するジェネリックがあるかわからないから	今はそれほでない薬代がかかっている	ジェネリック医薬品の質・効果から不安を感じる	薬剤師に頼めばいいのかわからない	医師の意見が聞きにくい	ジェネリックの調剤を処方してほしい	ジェネリックの調剤を処方してほしい	病気で体調が悪いときに、気が回らないから	長くなりそう、待ち時間が	その他	
全体	2010年11月	299	41.8	25.8	25.1	31.4	24.7	19.4	25.1	20.7	7.4	4.7	13.0	3.0	10.7
	2011年11月	285	41.4	26.3	25.6	25.6	20.4	18.2	14.7	14.7	7.4	6.7	5.3	2.1	7.4
性年代	男性30代	28	25.0	28.6	46.4	21.4	14.3	28.6	17.9	7.1	14.3	3.6	3.6	0.0	7.1
	男性40代	36	44.4	27.8	25.0	27.8	11.1	16.7	11.1	11.1	8.3	2.8	2.8	2.8	5.6
	男性50代	31	48.4	19.4	29.0	16.1	22.6	6.5	12.9	16.1	6.5	9.7	9.7	0.0	3.2
	男性60代	40	30.0	27.5	17.5	30.0	22.5	20.0	12.5	15.0	7.5	10.0	5.0	0.0	10.0
	女性30代	39	41.0	23.1	33.3	17.9	25.6	20.5	12.8	10.3	10.3	5.1	5.1	7.7	2.6
	女性40代	33	42.4	18.2	21.2	21.2	24.2	24.2	21.2	18.2	3.0	9.1	3.0	3.0	9.1
ジェネリック医薬品理解レベル	高レベル	17	23.5	17.6	5.9	41.2	29.4	5.9	11.8	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5
	中レベル	83	47.0	22.9	22.9	21.7	22.9	12.0	9.6	10.8	7.2	6.0	7.2	2.4	10.8
低レベル	185	40.5	28.6	28.6	25.9	18.4	22.2	17.3	15.1	8.1	7.6	4.9	2.2	4.3	

は全体より5Pt以上

は全体より5Pt以下



# 「ジェネリック医薬品」についての問い合わせ意向

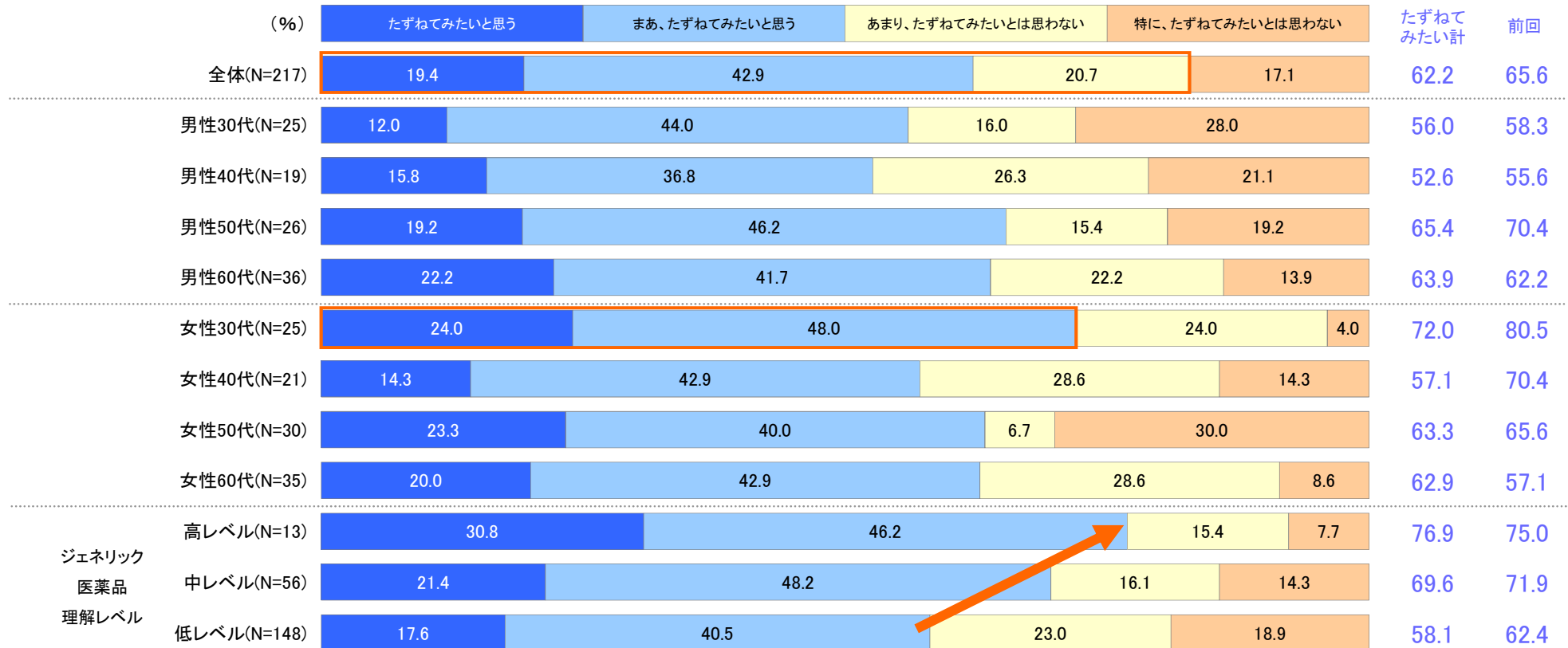
Q11で「ジェネリック医薬品を処方・調剤してもらったことがない」とお答えの方へ

## Q14. 今後機会があれば、医師や薬剤師に「ジェネリック医薬品」のことをたずねてみたいと思いますか。(SA)

「ジェネリック医薬品についてたずねてみたい」は62.2%であった。

性・年代別では女性30代が最も高く、72.0%であった。

また「ジェネリック医薬品」理解レベルが高いほど、問い合わせ意向は高くなっている。



※性年代別はサンプル数が少なく参考値



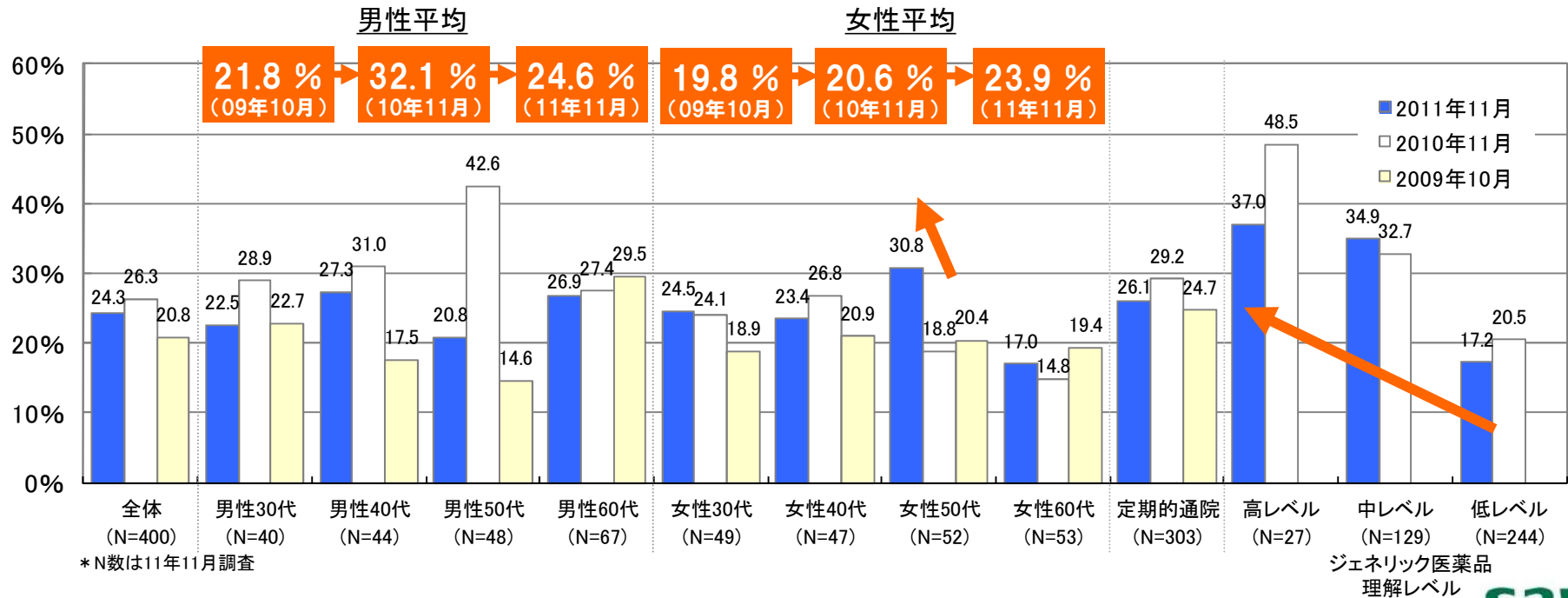
# 処方せん様式の変更認知

Q15.あなたはこのこと(以下の説明文)をご存知でしたか。(SA)

処方せん様式の変更について、知っている人は24.3%で前回より2.0Pt低下。  
年代別に見ると、女性50代のスコアが大きく伸びて、30.8%となった。

**【説明文】**

病院・薬局で薬を処方してもらう際、処方せんに医師のサインがなければ(※)、患者さんは薬剤師と相談して「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)に変更することができます。  
※「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)に変更が不可の場合のみ医師がサインをします。



\* N数は11年11月調査

# 「ジェネリック医薬品」について 薬剤師からの説明の有無

Q16. 2008年4月以降に、医療機関で薬をもらう際、薬剤師から「ジェネリック医薬品」についての説明を受けましたか。(SA)

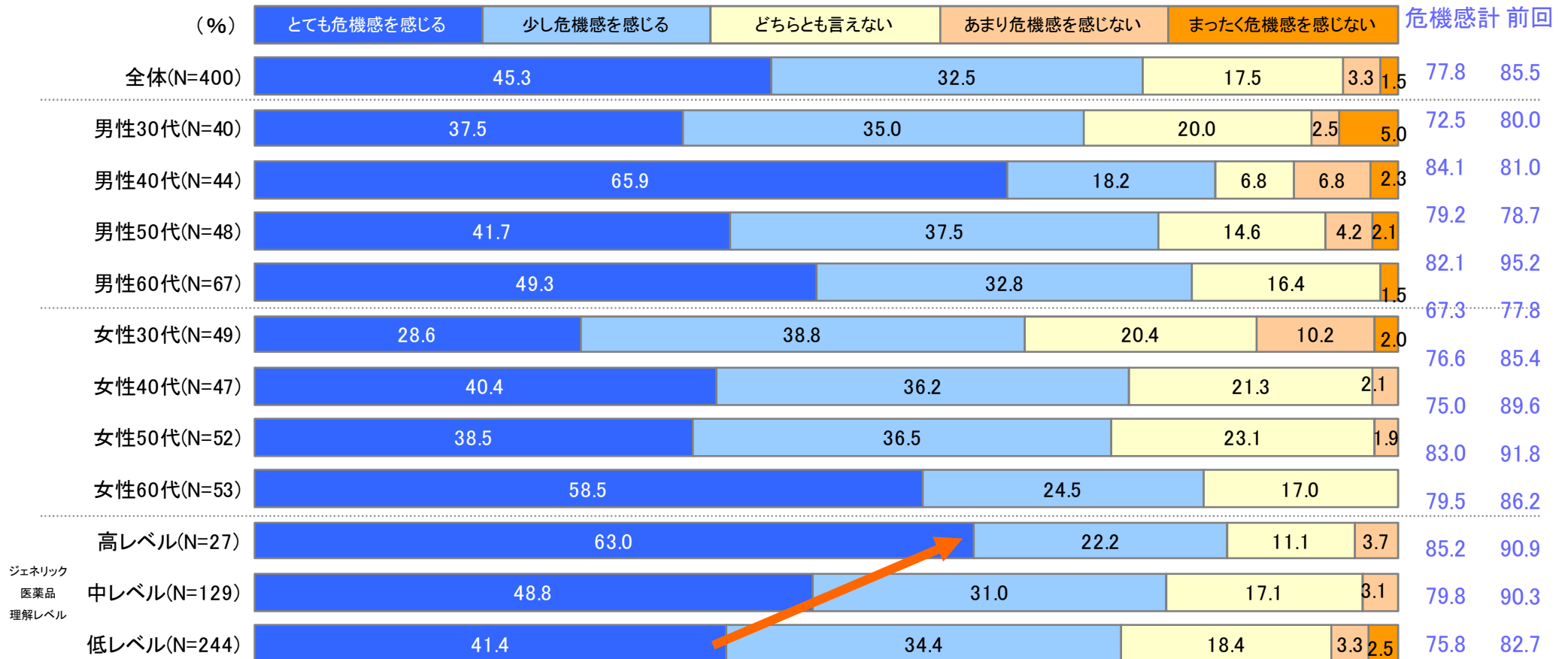
ほとんどの年代で説明を受けた割合がアップしている。  
特に男性40代、男性50代、女性30代で大幅な増加が見られた。

(%)	受けた	受けなかった	前々回	前回
全体(N=400)	33.0	67.0	18.5	29.8
男性30代(N=40)	25.0	75.0	20.5	37.8
男性40代(N=44)	34.1	65.9	22.5	28.6
男性50代(N=48)	41.7	58.3	29.2	34.0
男性60代(N=67)	32.8	67.2	26.2	29.0
女性30代(N=49)	34.7	65.3	11.3	25.9
女性40代(N=47)	34.0	66.0	18.6	29.3
女性50代(N=52)	30.8	69.2	12.2	27.1
女性60代(N=53)	30.2	69.8	9.7	27.9
ジェネリック 医薬品 理解レベル				
高レベル(N=27)	40.7	59.3		36.4
中レベル(N=129)	38.0	62.0		36.3
低レベル(N=244)	29.5	70.5		26.0

# 「国の医療費増大」の問題への危機感

Q17. 最近新聞やテレビなどで「国の医療費増大」による皆保険制度の是非や、企業健保組合の赤字などの問題がクローズアップされていますが、あなたはこの「国の医療費増大」の問題について危機感を感じますか。(SA)

全体の45.3%が「とても感じる」と答えており、「少し感じる」を含めると77.8%となった。  
またジェネリック医薬品の理解レベルの高い人ほど、「とても危機感を感じる」が高い傾向にある。



ジェネリック  
医薬品  
理解レベル



**【ジェネリック医薬品】  
医師におけるジェネリックへの意識  
2011年11月 医師調査**

2012年1月19日

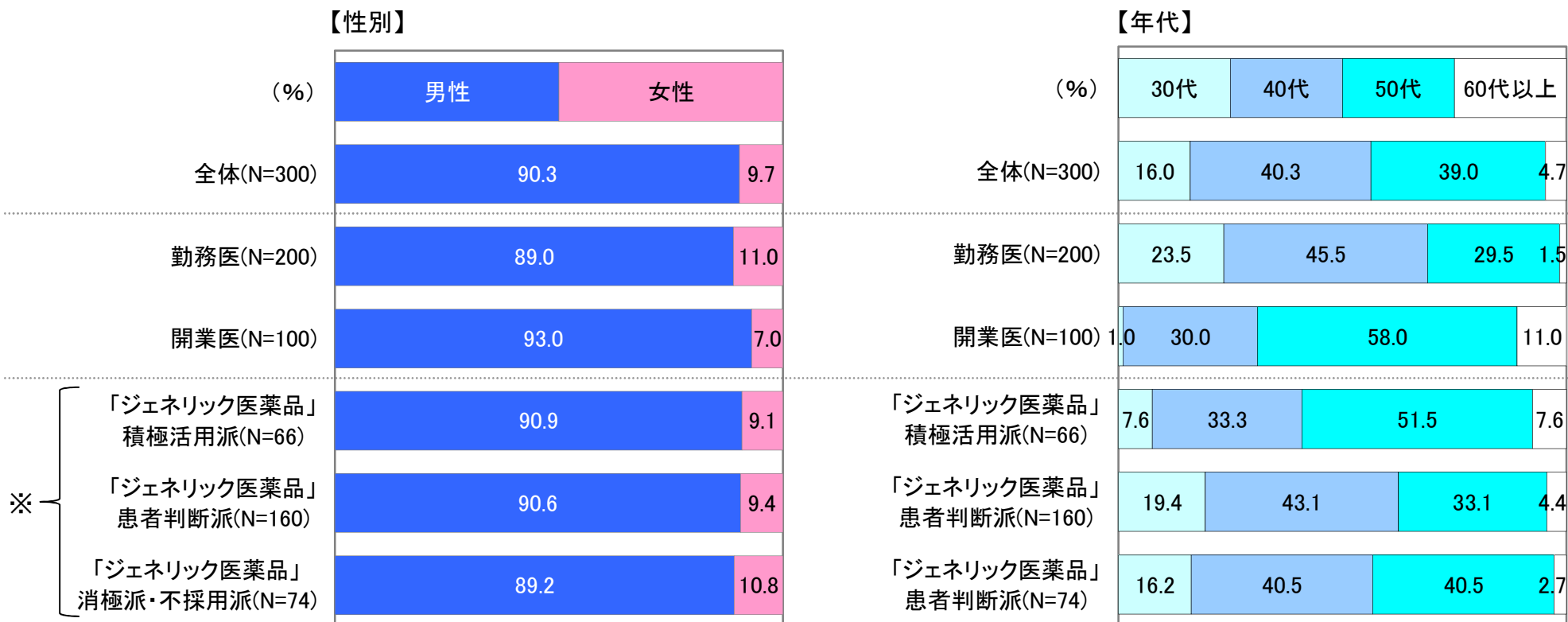
**沢井製薬株式会社**

今回の調査より初めて対象に医師を追加し、比較対象を薬剤師とした。  
薬剤師と比較することによって、医療従事者の中での「ジェネリック医薬品」に関する意識、  
処方・調剤状況の差異を検証する。

## 薬剤師調査

調査対象:	全国の医師
サンプル構成:	計300サンプル
調査項目:	・「ジェネリック医薬品」の認知項目 ・「ジェネリック医薬品」の活用方針 ・「ジェネリック医薬品」の啓発のための工夫 ・「ジェネリック医薬品」の普及のために必要なこと など
調査手法:	インターネット調査(実査機関:楽天リサーチ)
調査期間:	2011年11月4日(金)～6日(日)





※Q2 「ジェネリック医薬品の活用方針」より分類

- 積極活用派・・・「ジェネリック医薬品」の積極活用を進めていると回答した方
- 患者判断派・・・患者さんの判断に委ねていると回答した方
- 消極派・不採用派・・・「ジェネリック医薬品」を積極的には活用していない／勤め先では「ジェネリック医薬品」を採用していないと回答した方

【診療科目】

(%)		N	内科	整形外科	小児科	消化器内科	外科	皮膚科	循環器内科	眼科	精神科	麻酔科	産婦人科・婦人科	耳鼻咽喉科	消化器外科	アレルギー科	泌尿器科	腎臓内科・透析	心療内科	リウマチ科	放射線科	呼吸器内科	脳神経外科	神経内科	乳腺・内分泌科	代謝・内分泌・糖尿病	形成外科	心臓血管外科	腫瘍外科	腫瘍内科	呼吸器外科	小児外科	血液外科	その他
全体		300	34.0	12.0	11.0	9.7	9.7	6.0	5.7	5.7	5.0	5.0	4.7	4.7	4.3	4.0	3.7	3.7	3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	2.7	1.7	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	0.7	0.7	0.0	4.3
割付	勤務医	200	29.0	10.5	7.0	8.5	10.0	3.0	4.0	6.0	5.5	5.5	4.5	2.0	4.5	2.5	3.0	5.0	1.5	3.0	4.5	3.0	4.0	3.5	2.0	0.5	0.5	1.5	1.5	1.0	1.0	0.5	0.0	5.0
	開業医	100	44.0	15.0	19.0	12.0	9.0	12.0	9.0	5.0	4.0	4.0	5.0	10.0	4.0	7.0	5.0	1.0	7.0	4.0	1.0	3.0	1.0	1.0	1.0	3.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	3.0
「ジェネリック医薬品」活用区分	「ジェネリック医薬品」積極活用派	66	42.4	9.1	12.1	9.1	6.1	6.1	7.6	10.6	4.5	3.0	7.6	6.1	1.5	3.0	3.0	3.0	4.5	3.0	4.5	3.0	3.0	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	3.0	0.0	1.5	0.0	6.1
	「ジェネリック医薬品」患者判断派	160	29.4	12.5	10.6	8.1	8.8	6.3	6.3	3.1	5.6	6.3	4.4	3.8	5.6	3.8	3.1	2.5	2.5	0.6	2.5	2.5	3.8	4.4	2.5	0.6	1.3	1.3	1.9	0.6	0.0	0.6	0.0	5.6
	「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	74	36.5	13.5	10.8	13.5	14.9	5.4	2.7	6.8	4.1	4.1	2.7	5.4	4.1	5.4	5.4	6.8	4.1	9.5	4.1	4.1	1.4	1.4	1.4	2.7	0.0	1.4	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0

- Q1. 「ジェネリック医薬品」についてご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)
- Q2. あなたのお勤め先では、「ジェネリック医薬品」の積極的活用を進められていますか。(SA)
- Q3. 以下に挙げた疾患の薬について、あなたのお考えを5段階でお答えください。(SA)
- Q4. 2011年4月以降に、ジェネリック医薬品への変更を「不可」とした処方せんを発行したことがありますか。(SA)
- Q5. 患者さんから「ジェネリック医薬品を調剤(処方)して欲しい」と頼まれたことはありますか。(SA)
- Q6. 投薬または処方せんの交付を行う際に、  
患者さんがジェネリック医薬品を選択しやすくするために何か対応を行っていますか？(MA)
- Q7. 今後、「ジェネリック医薬品」が普及していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(MA)
- Q8. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、保険薬局や薬剤師に何を望みますか。(MA)
- Q9. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、製薬メーカーや卸業者に何を望みますか。(MA)

※SA：単一回答

※MA：複数回答

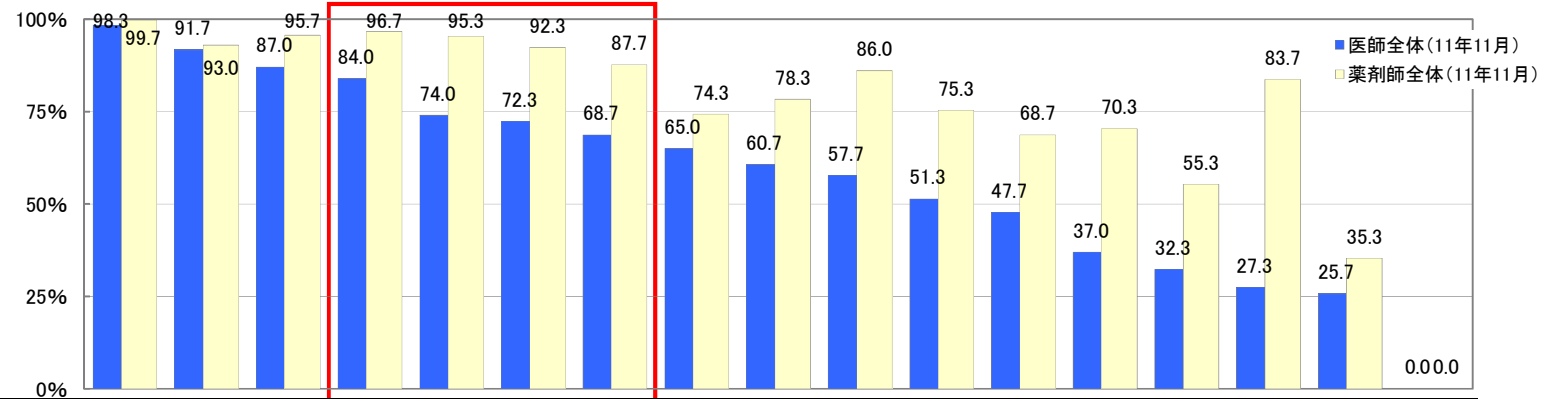
※FA：自由回答

# 「ジェネリック医薬品」の特徴認知

Q1. 「ジェネリック医薬品」についてご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)

上位3項目は高い水準であるが、薬剤師に比べ、全体的にスコアが低い項目が多い。

上位の「患者の自己負担額軽減」「国の医療費節減」「様々な薬効群で展開」などでも、薬剤師より10Pt以上低くなっている。



(%)	N	新薬の特許期間満了後に発売されるお薬	薬価は新薬の2〜7割	お医者さんから処方されるお薬(医療用医薬品)	患者個人の自己負担額の軽減につながる	国全体の医療費節減につながる	新薬と同じ主成分・同等の効き目	抗がん剤など様々な薬効群で展開	ジェネリック医薬品の使用促進は政府の「骨太方針」になっている	日本ではまだ使用されていないか	生物学的同等性試験及び溶出試験により、有効性安全性を確認	厚生労働省の承認済み製品の品質は	欧米諸国の多くでは	数量ベースシェア30%を目標	信頼区間は90%の方法	製剤工夫がされている	W H O が使用促進を	ひとつも知らない
	300	98.3	91.7	87.0	84.0	74.0	72.3	68.7	65.0	60.7	57.7	51.3	47.7	37.0	32.3	27.3	25.7	0.0
	300	99.7	93.0	95.7	96.7	95.3	92.3	87.7	74.3	78.3	86.0	75.3	68.7	70.3	55.3	83.7	35.3	0.0
	200	97.5	91.5	87.5	84.0	75.5	74.5	70.0	63.0	59.0	58.5	50.5	48.5	35.0	32.0	24.5	25.0	0.0
	100	100.0	92.0	86.0	84.0	71.0	68.0	66.0	69.0	64.0	56.0	53.0	46.0	41.0	33.0	33.0	27.0	0.0
	66	98.5	97.0	92.4	90.9	86.4	89.4	77.3	72.7	68.2	62.1	60.6	60.6	47.0	37.9	43.9	30.3	0.0
	160	98.1	90.0	86.3	85.0	75.6	75.6	67.5	65.0	58.1	59.4	55.0	45.6	36.3	31.9	22.5	25.6	0.0
	74	98.6	90.5	83.8	75.7	59.5	50.0	63.5	58.1	59.5	50.0	35.1	40.5	29.7	28.4	23.0	21.6	0.0

は全体より10Pt以上

は全体より10Pt以下



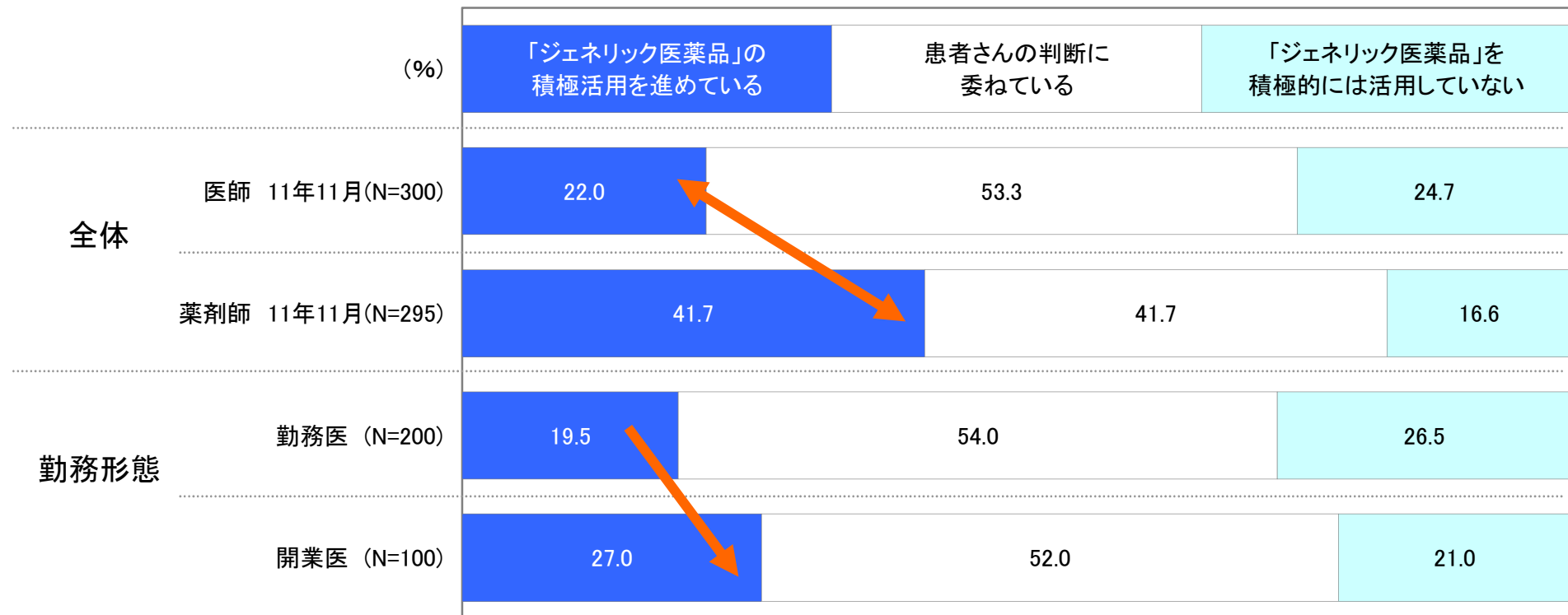
## 「ジェネリック医薬品」の活用方針

Q2. あなたのお勤め先では、「ジェネリック医薬品」の積極的活用を進められていますか。(SA)

「積極活用を進めている」は全体の22.0%で、薬剤師の41.7%とは開きがあった。

一方、「患者の判断に委ねる」が最も多く、53.3%だった。

また勤務形態では、開業医の方が「積極活用を進めている」が高く、27.0%であった。

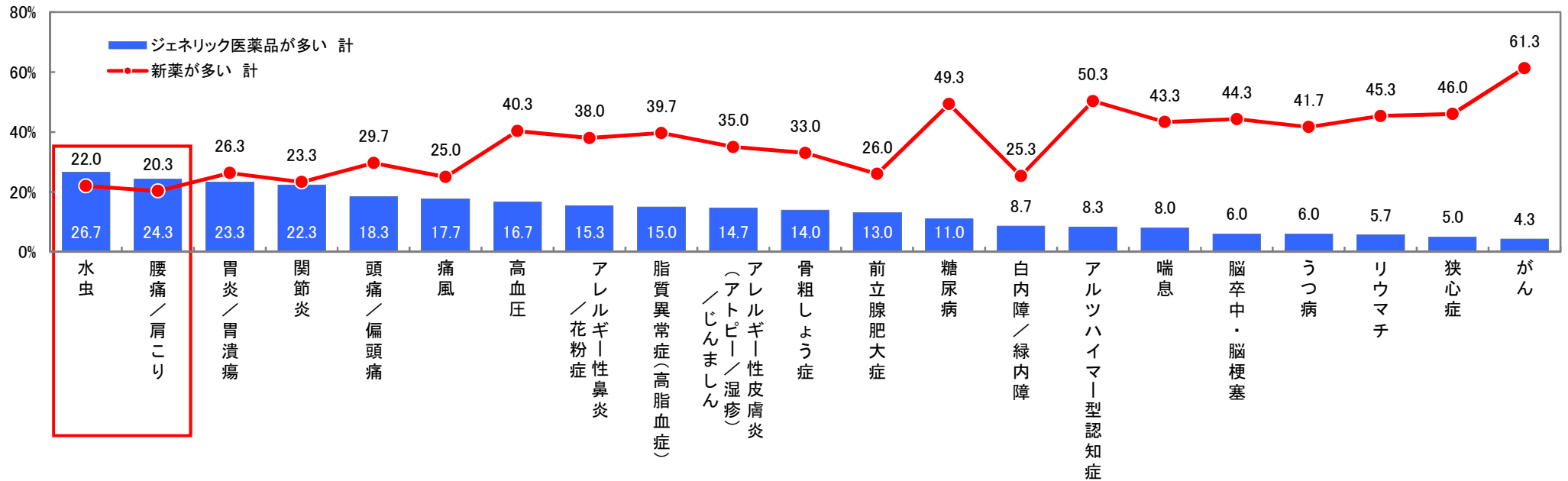


# 「ジェネリック医薬品」が良いと思う疾患（全体ベース）

Q3. 以下にあげた疾患のお薬について、あなたのお考えを5段階でお答えください。(SA)

調剤することの多い疾患は、全体ベースでは、「水虫」「腰痛／肩こり」「胃炎／胃潰瘍」「関節炎」が20%以上で高く、特に上位2項目は「新薬が多い」を上回っている。

【全体(N=300)】

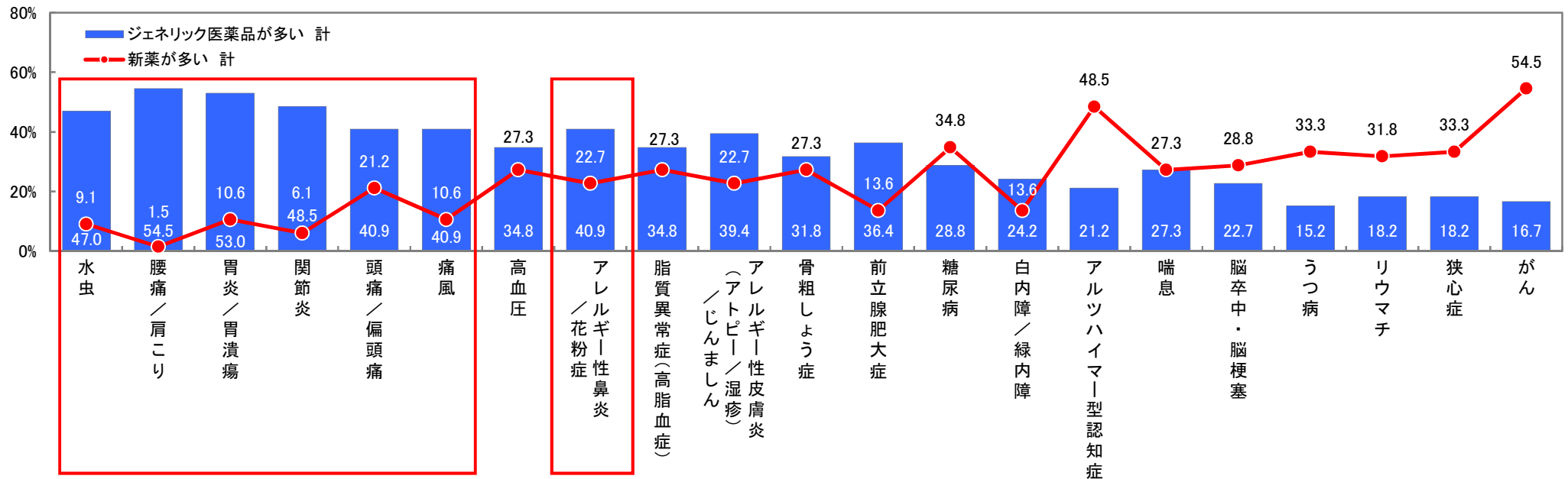


# 「ジェネリック医薬品」が良いと思う疾患（「ジェネリック医薬品」積極活用派ベース）

Q3. 以下にあげた疾患のお薬について、あなたのお考えを5段階でお答えください。(SA)

調剤することの多い疾患は、「ジェネリック医薬品」積極活用派ベースでは、全体ベースの「水虫」「腰痛／肩こり」「胃炎／胃潰瘍」「関節炎」に加え、「頭痛・偏頭痛」「痛風」「アレルギー性鼻炎／花粉症」が40%以上で高くなっている。積極派では、「新薬が多い」を上回っている項目が非常に多くなっている。

【「ジェネリック医薬品」積極活用派(N=66)】





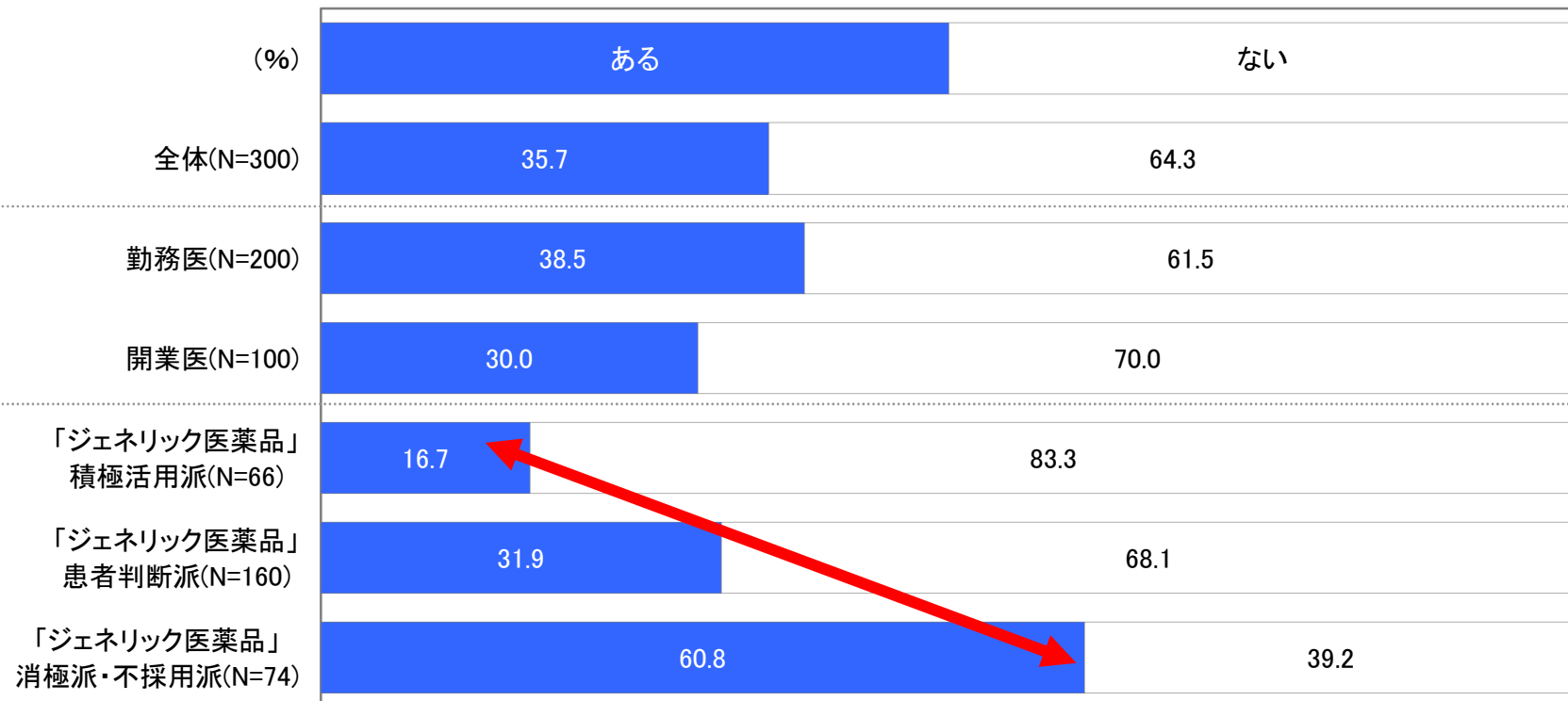
## 「ジェネリック医薬品」変更不可処方せんの有無

Q4. 2011年4月以降に、ジェネリック医薬品への変更を「不可」とした処方せんを発行したことがありますか。(SA)

変更不可処方せんを発行したことが「ある」のは全体の35.7%で、6割以上は発行したことが「ない」。

発行したことが「ある」のは勤務医が38.5%に対し、開業医は30.0%と差が見られた。

「ジェネリック医薬品」積極活用派の16.7%に対し、消極派は60.8%、44.1Ptもの大きな差が見られた。

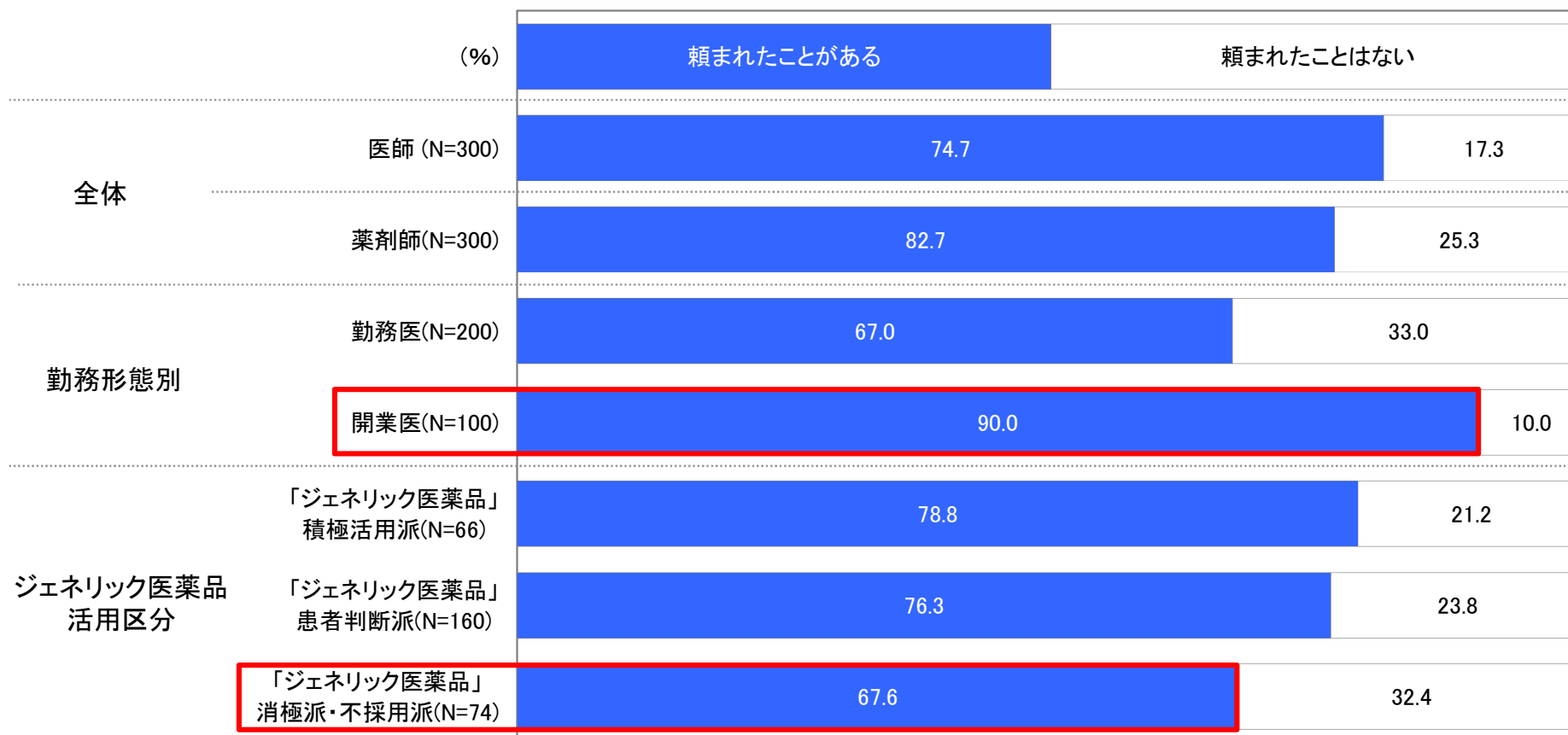


Q5. 患者さんから「ジェネリック医薬品を調剤(処方)して欲しい」と頼まれたことはありますか。(SA)

処方依頼された経験は、74.7%で、薬剤師に比べると8Pt下回っているものの70%を超える結果となった。

特に開業医では、90.0%と非常に高くなっている。

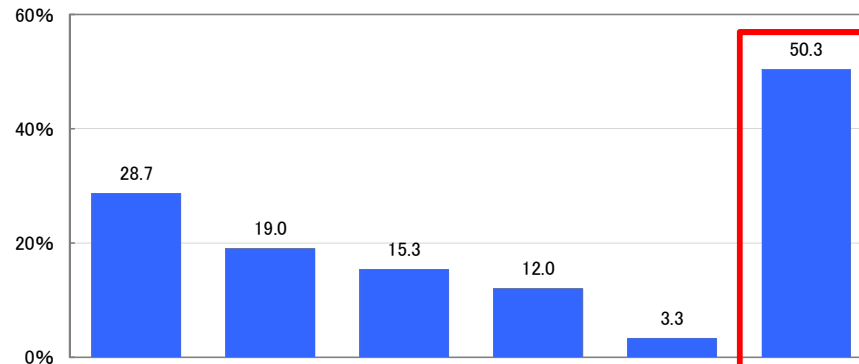
ジェネリック医薬品活用区分別に見ると、消極派でも67.6%が依頼された経験があった。



# 「ジェネリック医薬品」選択のための工夫

Q6. 投薬または処方せんの交付を行う際に、患者さんがジェネリック医薬品を選択しやすくするために何か対応を行っていますか。(MA)

「保険薬局で変更調剤が可能であることを伝える」が高く28.7%、次いで「患者に希望を確認」が19.0%。  
しかし、50.3%が対応を行っていることは「特になし」と回答。



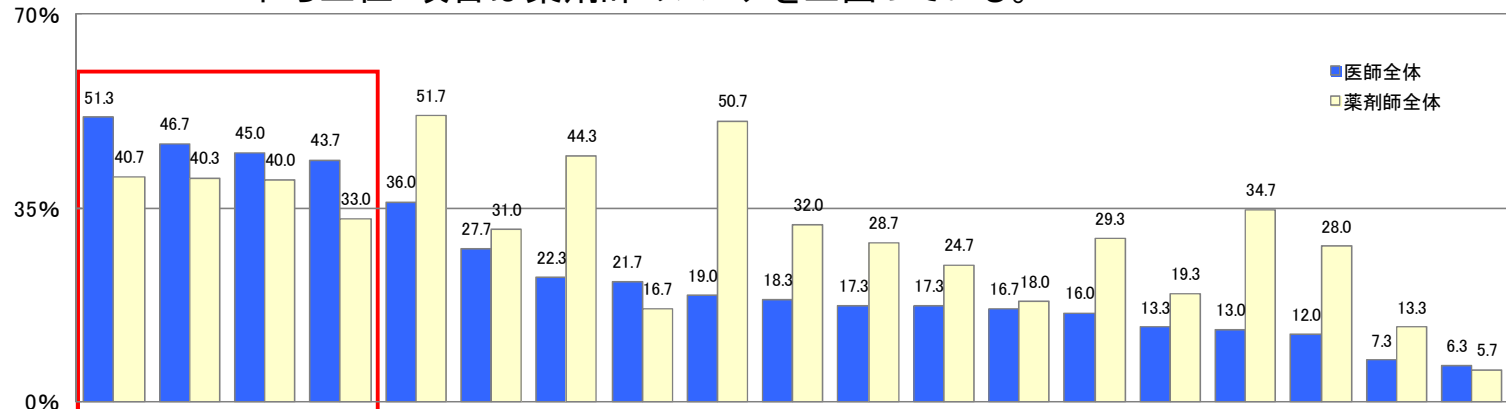
(%)	N	患者に希望を確認	保険薬局で変更調剤が可能であることを伝える	ジェネリック医薬品に関する説明	患者にジェネリック医薬品の使用を勧める	その他	特になし
全体	300	28.7	19.0	15.3	12.0	3.3	50.3
勤務医	200	28.0	16.5	12.0	8.5	3.5	54.0
開業医	100	30.0	24.0	22.0	19.0	3.0	43.0
「ジェネリック医薬品」積極活用派	66	22.7	27.3	15.2	24.2	6.1	45.5
「ジェネリック医薬品」患者判断派	160	38.8	22.5	20.6	11.3	0.6	40.6
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	74	12.2	4.1	4.1	2.7	6.8	75.7

は全体より10Pt以上      は全体より10Pt以下

# 「ジェネリック医薬品」が普及するために必要なこと

Q7. 今後、「ジェネリック医薬品」が普及していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(MA)

「より高品質な製品の開発・製造」51.3%、「国が品質を保証」46.7%、  
 「ジェネリック医薬品メーカーに対する信頼感が上がる」45.0%、「情報提供の充実」43.7%、  
 これら上位4項目は薬剤師のスコアを上回っている。



(%)	N	製造より高品質な製品の開発・製造	国が品質を保証する	ジェネリック医薬品メーカーに対する信頼感が上がる	ジェネリック医薬品メーカーからの情報提供を充実させる	安定供給できる体制を整える	患者が「ジェネリック医薬品」のことを知るようになる	確保できる薬価制度の導入	ジェネリック医薬品に切り替えても利益を確保できる	新薬メーカーがジェネリック医薬品に取り組み	医師が「ジェネリック医薬品」に対する理解を深める	国が使用を促進する制度に取り組む	国が国民に対する啓発活動に取り組む	ジェネリック医薬品の薬価の大幅な改定	説明しやすい体制（パンフレットやツール等）が充実する	大学病院など大病院が採用する	製薬メーカーの再編・統合	在庫問題などを解決するための薬局の地域連携体制を整える	「ジェネリック医薬品」に対する理解を深める	企業の健康組合や地域行政が積極的に使用促進に取り組む	その他
医師全体	300	51.3	46.7	45.0	43.7	36.0	27.7	22.3	21.7	19.0	18.3	17.3	17.3	16.7	16.0	13.3	13.0	12.0	7.3	6.3	
薬剤師全体	300	40.7	40.3	40.0	33.0	51.7	31.0	44.3	16.7	50.7	32.0	28.7	24.7	18.0	29.3	19.3	34.7	28.0	13.3	5.7	
勤務医	200	51.0	46.0	43.5	42.5	32.5	28.0	22.0	20.0	16.5	20.0	19.5	13.5	15.0	16.5	11.5	10.5	11.0	7.5	5.0	
開業医	100	52.0	48.0	48.0	46.0	43.0	27.0	23.0	25.0	24.0	15.0	13.0	25.0	20.0	15.0	17.0	18.0	14.0	7.0	9.0	
「ジェネリック医薬品」積極活用派	66	42.4	47.0	39.4	51.5	42.4	43.9	30.3	27.3	33.3	28.8	27.3	30.3	19.7	27.3	12.1	19.7	19.7	13.6	1.5	
「ジェネリック医薬品」患者判断派	160	50.6	47.5	50.0	42.5	40.0	30.6	21.9	16.3	20.0	20.6	18.1	16.9	19.4	16.3	14.4	15.6	13.8	8.1	5.0	
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	74	60.8	44.6	39.2	39.2	21.6	6.8	16.2	28.4	4.1	4.1	6.8	6.8	8.1	5.4	12.2	1.4	1.4	0.0	13.5	

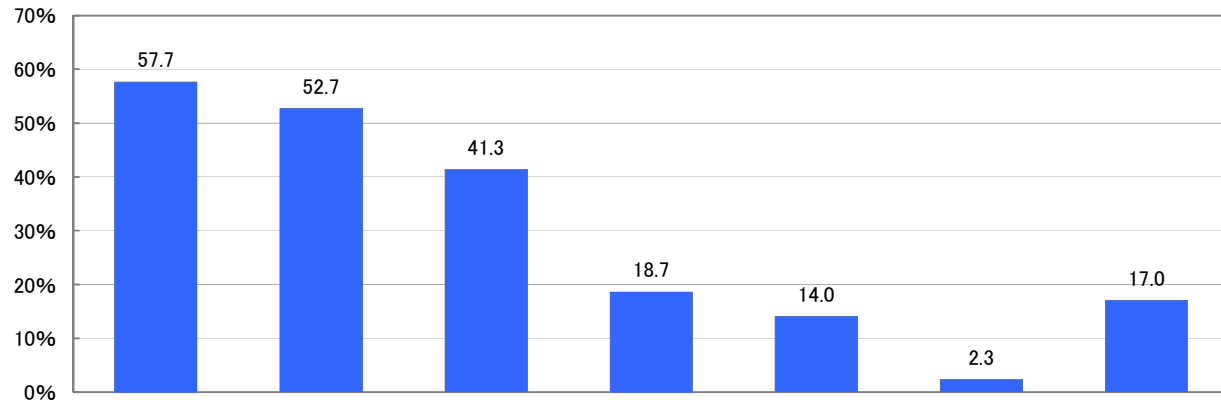
は全体より10Pt以上

は全体より10Pt以下

# 「ジェネリック医薬品」使用のために薬剤師に望むこと

Q8. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、保険薬局や薬剤師に何を望みますか。(MA)

「効能が異なる場合は確認してほしい」が57.7%と最も多かった。  
 次いで「患者へきちんとした説明をしてほしい」が52.7%、「医療機関へフィードバック」が41.3%と続く。



(%)	N	確認が異なる場合は	説明をきちんとほしい	医療機関へフィードバック	ジェネリック医薬品について理解を深めてほしい	院内でジェネリック医薬品の情報を独自に収集し、採行するようない	その他	保険薬局や薬剤師に望むことは特にない
全体	300	57.7	52.7	41.3	18.7	14.0	2.3	17.0
勤務医	200	57.0	52.5	40.0	17.0	17.0	3.5	16.0
開業医	100	59.0	53.0	44.0	22.0	8.0	0.0	19.0
「ジェネリック医薬品」積極活用派	66	51.5	56.1	36.4	27.3	22.7	3.0	15.2
「ジェネリック医薬品」患者判断派	160	63.1	57.5	41.3	18.8	13.8	1.3	12.5
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	74	51.4	39.2	45.9	10.8	6.8	4.1	28.4

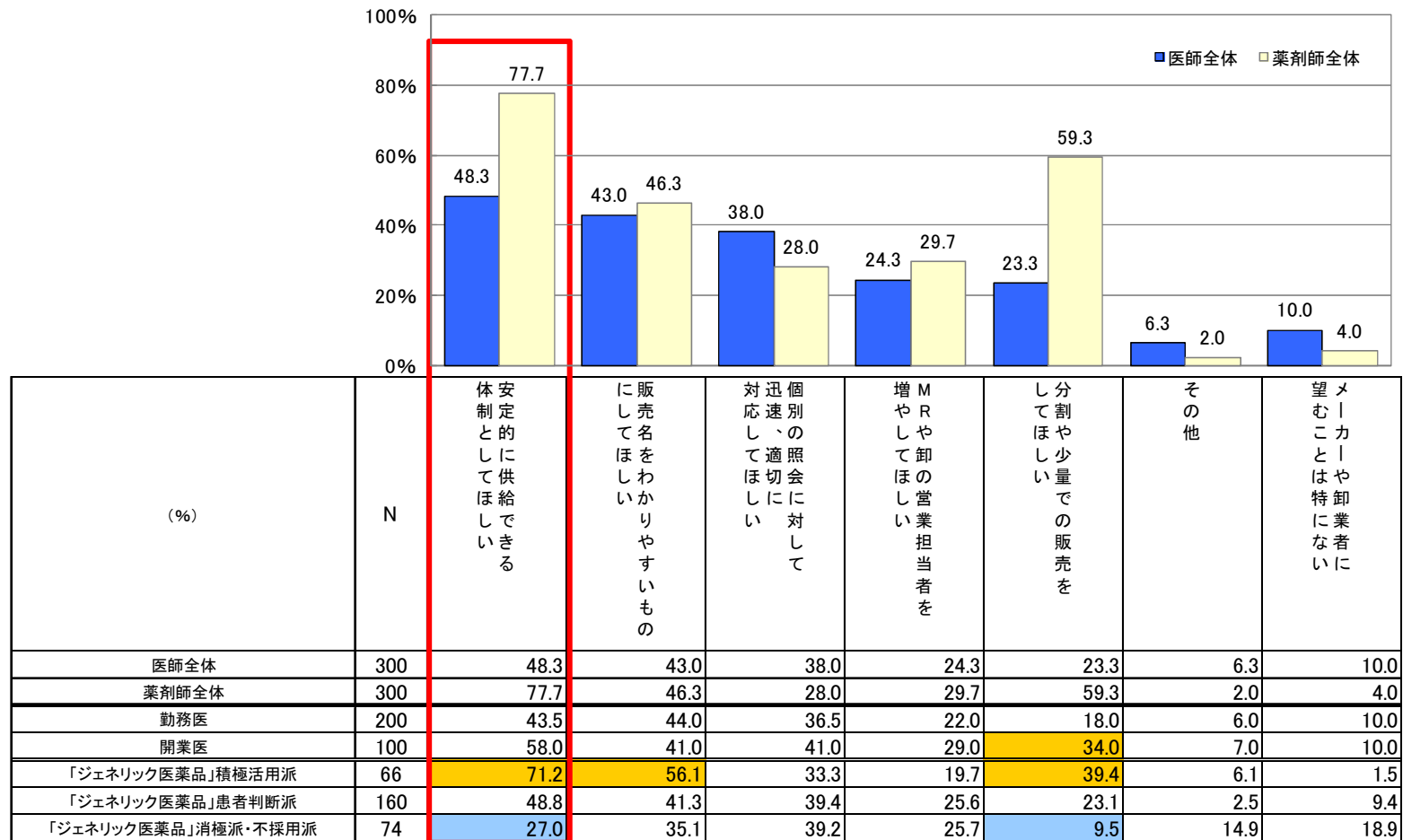
は全体より10Pt以上

は全体より10Pt以下

# 「ジェネリック医薬品」使用のために製薬メーカーに望むこと

Q9. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、製薬メーカーや卸業者に何を望みますか。(MA)

「安定的供給体制」が48.3%と最も多く、薬剤師(48.3%)とともに安定供給に対する要望が1位となった。



は全体より10Pt以上      は全体より10Pt以下



**【ジェネリック医薬品】  
薬剤師におけるジェネリックへの意識  
2011年11月 薬剤師調査**

2012年1月19日

**沢井製薬株式会社**



## 調査の目的

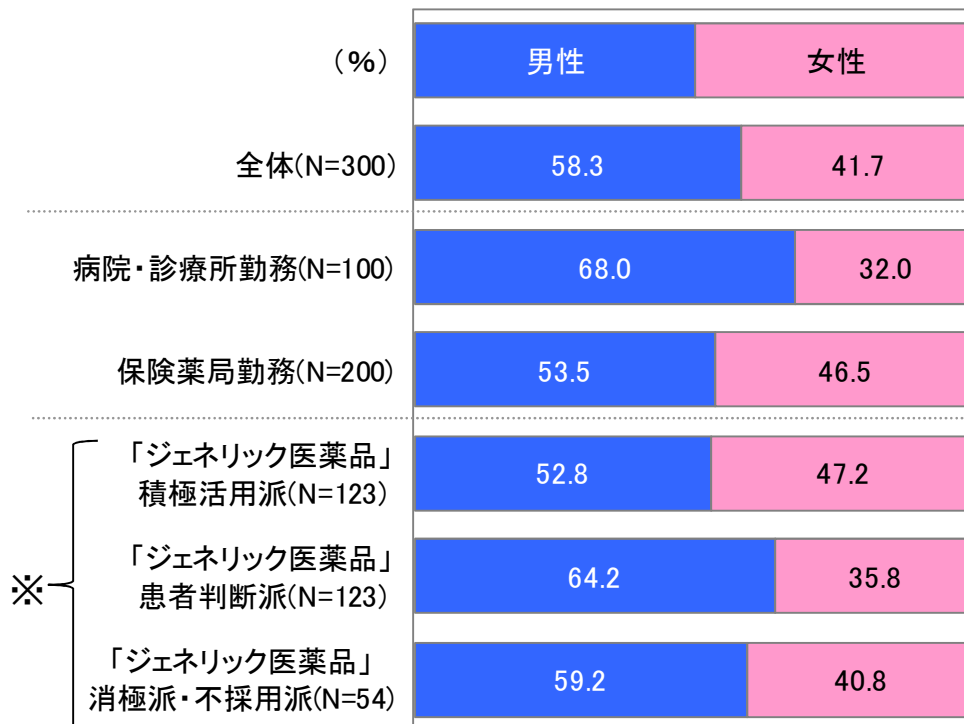
ジェネリック医薬品に関する意識、処方・調剤状況を定点観測として時系列で比較する。  
また、2010年4月の診療報酬改定から1年半以上経過し、  
ジェネリック医薬品についての説明の有無、処方・調剤状況や、市場環境の変化を探る。

### 薬剤師調査

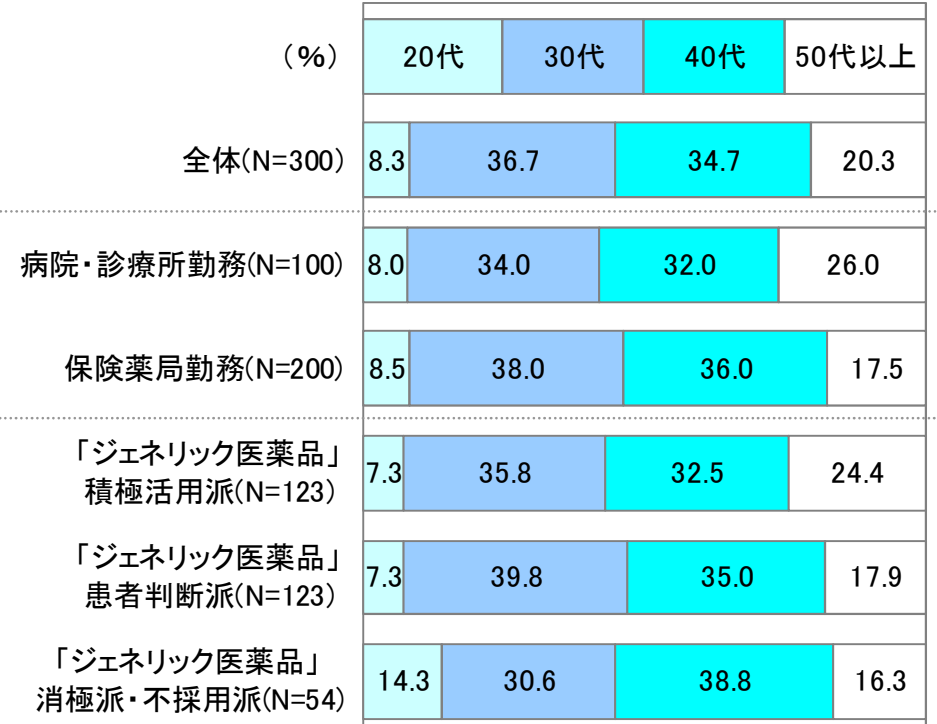
調査対象:	全国の薬剤師
サンプル構成:	計300サンプル
調査項目:	・「ジェネリック医薬品」の活用方針 ・「ジェネリック医薬品」の啓発のための工夫 ・「ジェネリック医薬品」へ変更可能な処方せん割合 ・「ジェネリック医薬品」へ変更可能な処方せんへの対応 など
調査手法:	インターネット調査(実査機関:楽天リサーチ)
調査期間:	2011年11月4日(金)~6日(日)

# 回答者の内訳

【性別】



【年代】



※Q2 「ジェネリック医薬品の活用方針」より分類

- 積極活用派・・・「ジェネリック医薬品」の積極活用を進めていると回答した方
- 患者判断派・・・患者さんの判断に委ねていると回答した方
- 消極派・不採用派・・・「ジェネリック医薬品」を積極的には活用していない／勤め先では「ジェネリック医薬品」を採用していないと回答した方

- Q1. 「ジェネリック医薬品」についてご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)
- Q2. あなたのお勤め先では、「ジェネリック医薬品」の積極的活用を進められていますか。(SA)
- Q3. あなたのお勤め先の薬局が、現時点で取得している「後発医薬品調剤体制加算」は何点ですか。(SA)
- Q4. あなたのお勤め先の薬局では、「後発医薬品調剤体制加算」の加算点数を今後さらに伸ばしていく方針はありますか。(SA)
- Q5. あなたのお勤め先では、「ジェネリック医薬品」啓発のための工夫を何かされていますか。(MA)
- Q6. ここ最近1ヶ月以内に応需した処方せんのうち、  
「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインがない)処方せんはだいたいどのくらいでしたか。(SA)  
また、「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインがない)処方せんのうち、  
実際にジェネリック医薬品に変更になった割合はだいたいどれくらいでしたか。(SA)
- Q7. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、あなたやあなたのお勤め先では、  
患者さんに対し、「ジェネリック医薬品」についての説明を行っていますか。ここ最近1ヶ月以内についてお答えください。(MA)
- Q8. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、  
あなたやあなたのお勤め先ではどのような対応をとっておられますか。あてはまるものを全てお答えください。(MA)

- Q9. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、以下に挙げた疾患の薬について、「ジェネリック医薬品」を調剤することと、「新薬」を調剤することの、どちらが多いですか。(SA)
- Q10. 2008年4月以降、患者さんから「ジェネリック医薬品を調剤(処方)して欲しい」と頼まれたことはありますか。(SA)
- Q11. 患者さんの薬代の負担額が、新薬と比べてどの位安くなるケースであれば、患者さんに「ジェネリック医薬品」を勧めやすいですか。1ヶ月当たり金額として何円安くなる場合と、率として何%安くなる場合、それぞれお答えください。(FA)
- Q12. 今後、「ジェネリック医薬品」が普及していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(MA)
- Q13. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、医師に何を望みますか。(MA)
- Q14. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、メーカーや卸業者に何を望みますか。(MA)
- Q15. 最近、新聞やテレビなどで「国の医療費増大」による皆保険制度の是非や、企業健保組合の赤字などの問題がクローズアップされていますが、あなたはこの「国の医療費増大」の問題について危機感を感じますか。(SA)

※SA: 単一回答

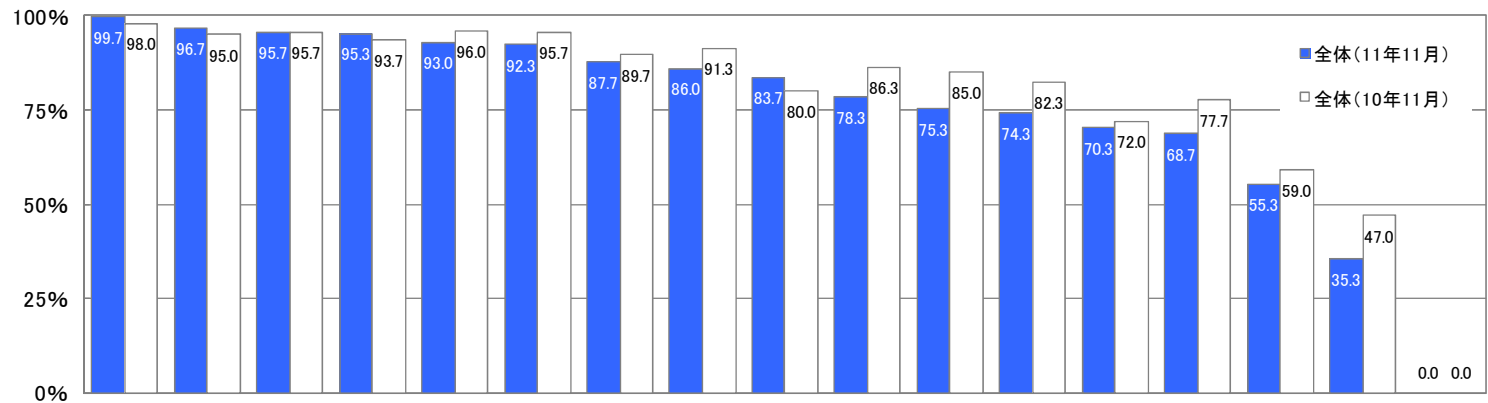
※MA: 複数回答

※FA: 自由回答

# 「ジェネリック医薬品」の特徴認知

Q1. 「ジェネリック医薬品」についてご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)

主要項目は引き続き高い水準をキープ。90%以上の項目は6項目となった。



(%)	N	発売される特許期間満了後に	患者個人の自己負担額の軽減につながる	お医者さんから処方されるお薬(医療用医薬品)	国全体の医療費節減につながる	薬価は新薬の2〜7割	新薬と同じ主成分・同等の効き目	抗がん剤など循環器用剤・抗生物質・アレルギー薬・抗糖尿病薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬・抗真菌薬・抗結核薬・抗HIV薬・抗エイズ薬	生物学的同等性試験及び溶解性試験により確認	製剤工法がやさしいように、薬を飲みやすいように	日本ではまだ約20%程度しか使用されていない	製品の品質は厚生労働省の承認済み	ジェネリック医薬品の使用促進は政府の政策になっている	を数量ベースとしてシェア32%まで	国の方針として2013年までに	医療用医薬品の多くでは50%の	欧米諸国の方法	判定方法は90%信頼区間	生物学的同等性試験の間	WHOが使用促進を提唱	ひとつも知らない
全体(10年11月)	300	98.0	95.0	95.7	93.7	96.0	95.7	89.7	91.3	80.0	86.3	85.0	82.3	72.0	77.7	59.0	47.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全体(11年11月)	300	99.7	96.7	95.7	95.3	93.0	92.3	87.7	86.0	83.7	78.3	75.3	74.3	70.3	68.7	55.3	35.3	0.0	0.0	0.0	0.0
病院・診療所	100	100.0	99.0	97.0	96.0	98.0	92.0	93.0	88.0	83.0	86.0	70.0	77.0	70.0	71.0	65.0	43.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保険薬局	200	99.5	95.5	95.0	95.0	90.5	92.5	85.0	85.0	84.0	74.5	78.0	73.0	70.5	67.5	50.5	31.5	0.0	0.0	0.0	0.0
「ジェネリック医薬品」積極活用派	123	99.2	98.4	97.6	95.9	94.3	92.7	90.2	91.1	86.2	85.4	78.9	78.9	75.6	68.3	61.0	43.9	0.0	0.0	0.0	0.0
「ジェネリック医薬品」患者判断派	123	100.0	95.9	95.1	98.4	93.5	92.7	86.2	83.7	83.7	75.6	80.5	74.8	67.5	70.7	52.0	31.7	0.0	0.0	0.0	0.0
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	54	100.0	93.9	93.9	87.8	87.8	89.8	85.7	79.6	79.6	67.3	55.1	65.3	67.3	67.3	49.0	26.5	0.0	0.0	0.0	0.0

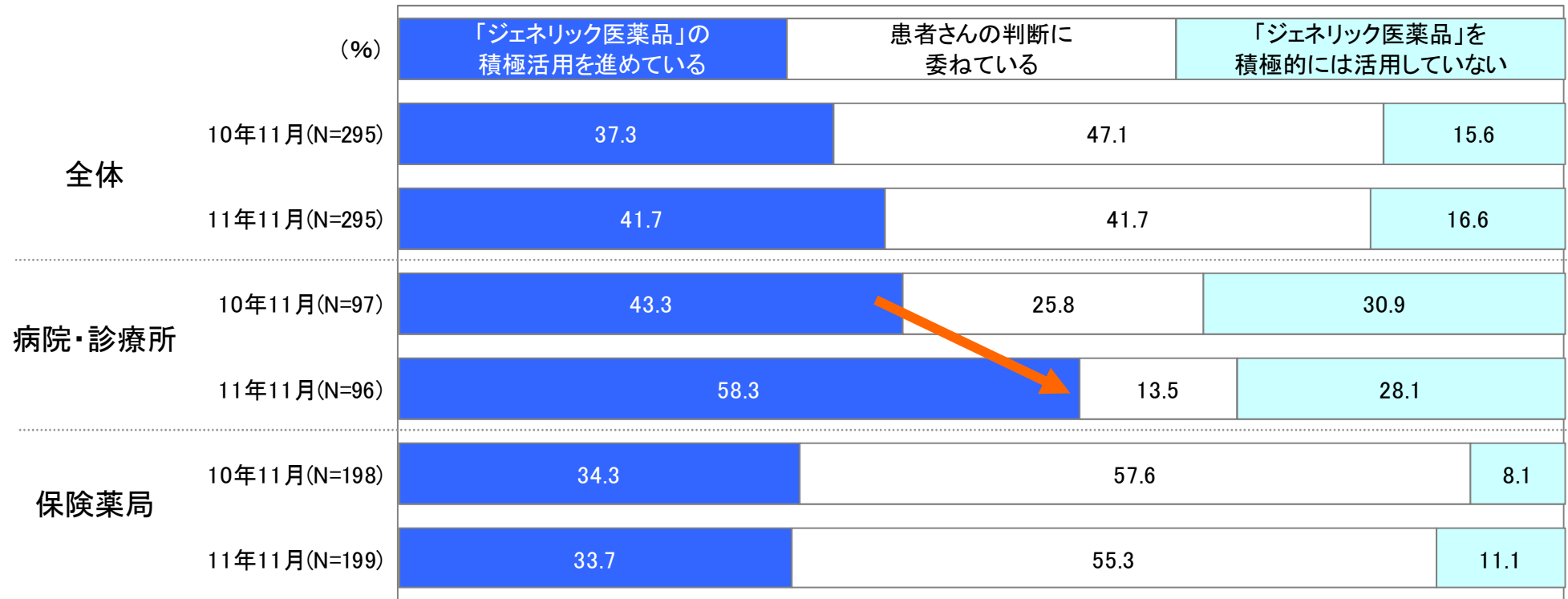
は全体より10Pt以下



## 「ジェネリック医薬品」の活用方針（ジェネリック医薬品採用者に対して）

Q2. あなたのお勤め先では、ジェネリック医薬品の積極的活用を進められていますか。(SA)

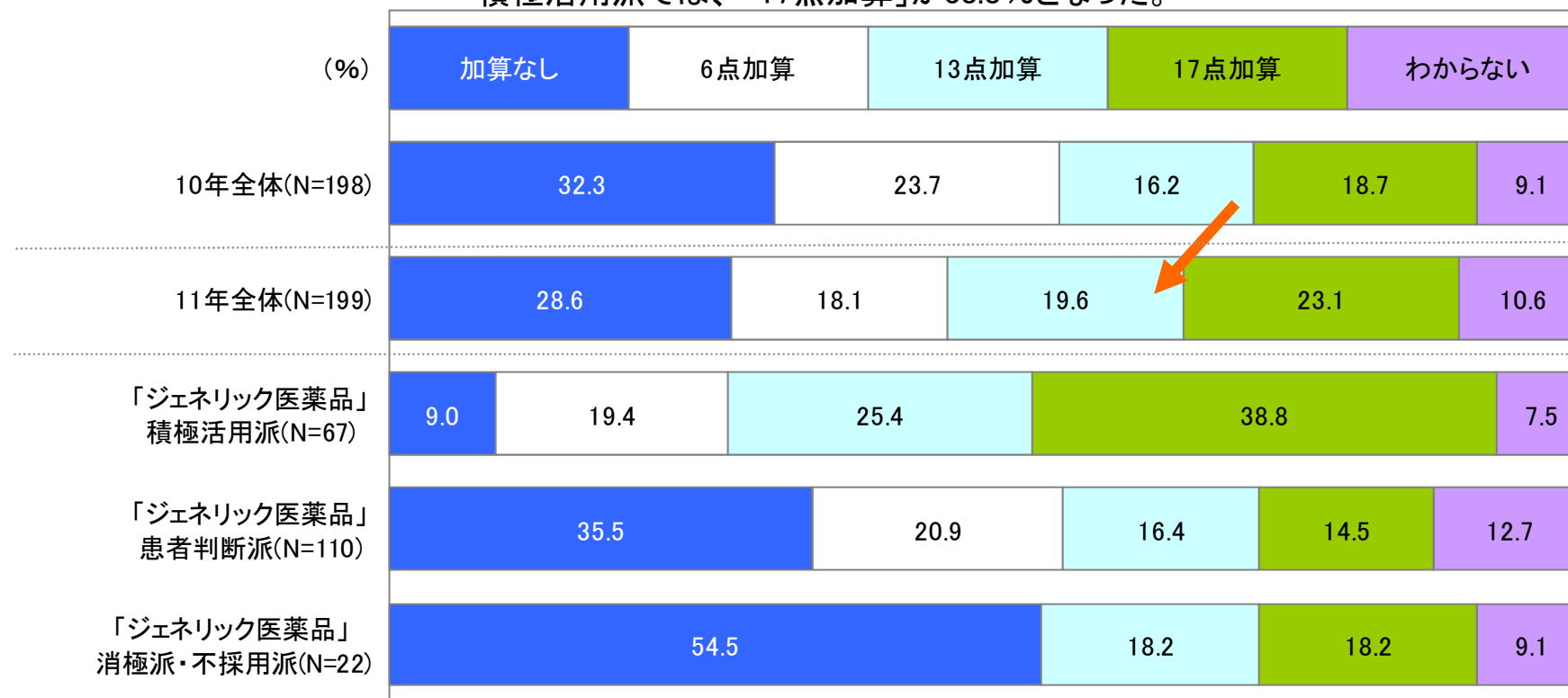
「積極活用を進めている」は全体の41.7%。病院・診療所で大幅にアップし、58.3%となった。  
一方、保険薬局では、「積極活用を進めている」はあまり変わっていない。



# 「後発医薬品調剤体制加算点数」取得状況（保険薬局勤務者）

Q3. あなたのお勤め先の薬局が、現時点で取得している「後発医薬品調剤体制加算」は何点ですか。（SA）

「加算なし」が最も多く、次いで「17点加算」が23.1%。  
 「17点加算」は前年に比べ、4.4Ptの増加。「13点加算」も3.4Pt増加、「加算なし」は3.7Pt減少した。  
 積極活用派では、「17点加算」が38.8%となった。



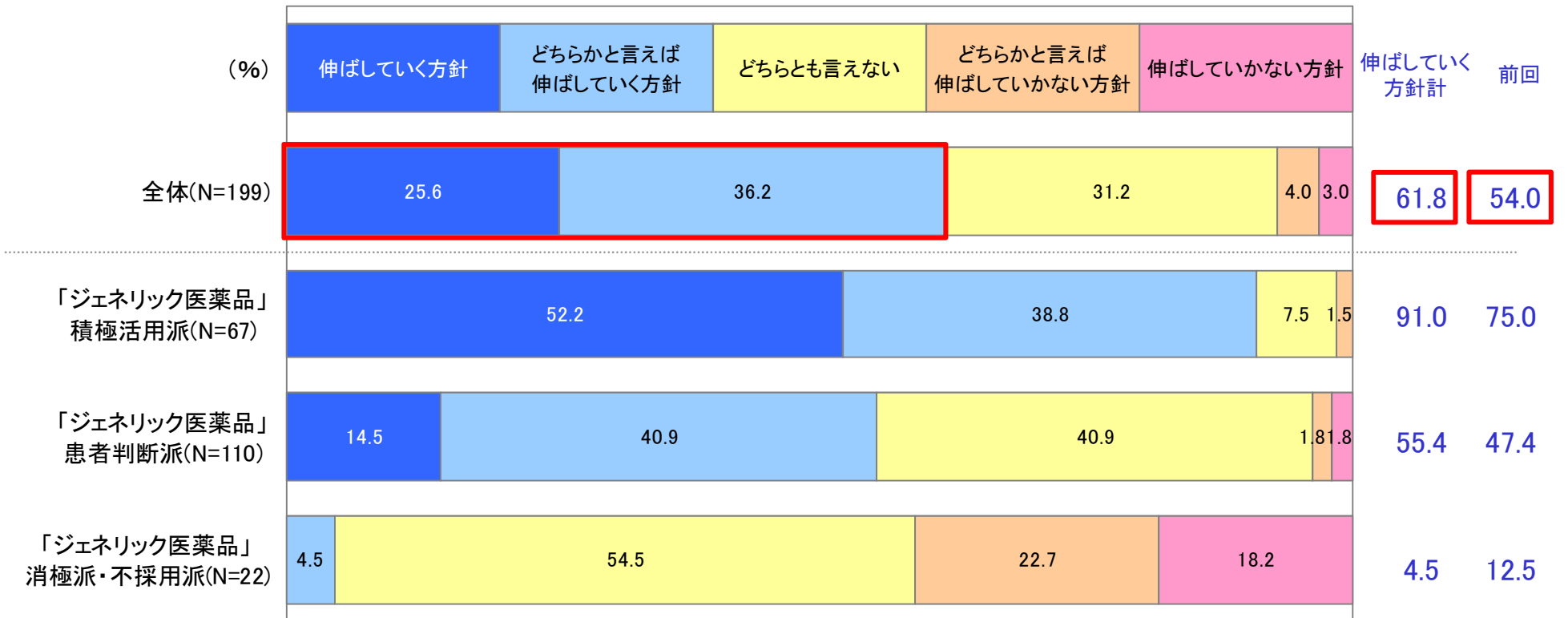
（「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派は、サンプル数が少なく参考値）



# 「後発医薬品調剤体制加算点数」取得方針（保険薬局勤務者）

Q4. あなたのお勤め先の薬局では、「後発医薬品調剤体制加算」の加算点数を、今後さらに伸ばしていく方針はありますか。(SA)

保険薬局全体で「伸ばしていく方針」が25.6%で、  
 「どちらかと言えば伸ばしていく」を加えると、61.8%で、前年に比べ7.8Pt増加している。  
 積極活用派では91.0%、中立派も55.5%が、伸ばす方針をとっている。

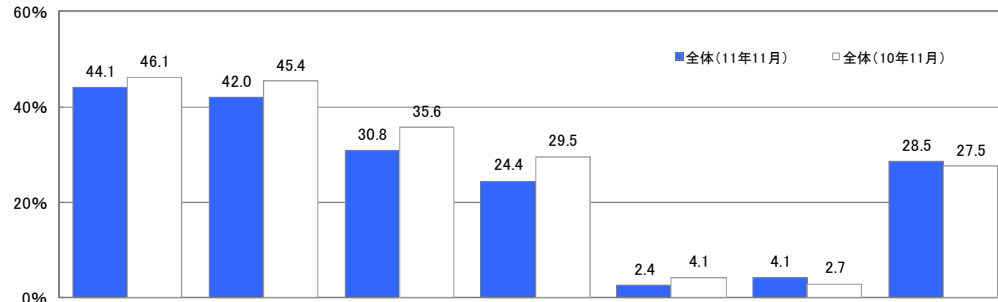


(「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派は、サンプル数が少なく参考値)

# 「ジェネリック医薬品」啓発のための工夫

Q5. あなたのお勤め先では、「ジェネリック医薬品」啓発のための工夫を何かされていますか。(MA)

「薬剤師が直接意向を確認」「啓発ポスターを掲示」の2項目が40%以上で高くなっている一方、「その他」「特に何もしていない」以外の全ての項目において、前回より減少している。



(%)	N	薬剤師が直接意向を確認	啓発ポスターを掲示	問診票で意向を確認	啓発パンフレットを配置	啓発映像を放映	その他	特に何もしていない
全体(10年11月)	295	46.1	45.4	35.6	29.5	4.1	2.7	27.5
全体(11年11月)	295	44.1	42.0	30.8	24.4	2.4	4.1	28.5
病院・診療所	96	11.5	24.0	6.3	7.3	1.0	10.4	54.2
保険薬局	199	59.8	50.8	42.7	32.7	3.0	1.0	16.1
「ジェネリック医薬品」積極活用派	123	52.8	48.8	34.1	30.9	5.7	9.8	19.5
「ジェネリック医薬品」患者判断派	123	48.0	47.2	35.8	25.2	0.0	0.0	21.1
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	54	12.2	12.2	10.2	6.1	0.0	0.0	69.4

■は全体より10Pt以上 ■は全体より10Pt以下

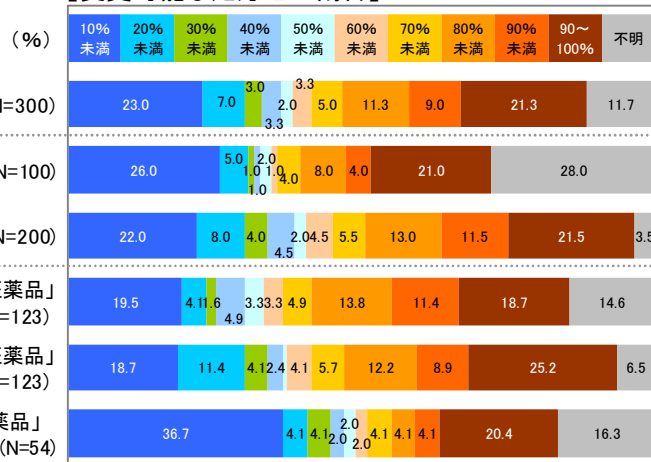
# 変更可能処方せんへの取り扱い状況と対応状況

Q6. ここ最近1ヶ月以内に応需した処方せんのうち、「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない  
 (医師のサインがない)処方せんはだいたいどのくらいでしたか。(SA)  
 また、「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインがない)処方せんのうち、  
 実際にジェネリック医薬品に変更になった割合はだいたいどのくらいでしたか。(SA)

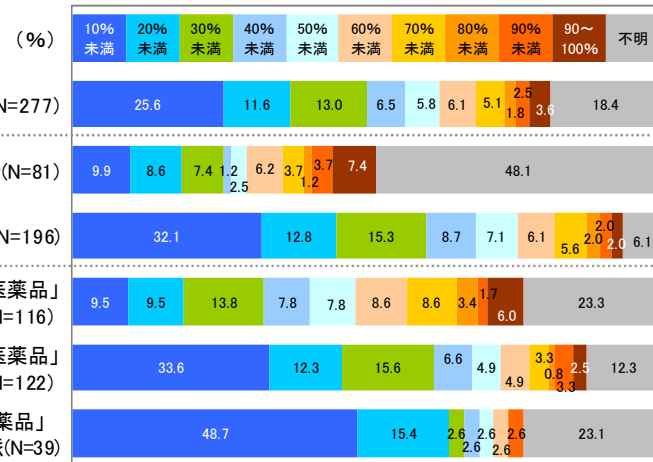
「変更可能な処方せん」の割合はここ数年変化は見られないが、「変更可能な処方せんをジェネリック医薬品に変更した割合」が30.3%と増加していることから、「実際にジェネリック医薬品に変更になった割合」も増加傾向にある。

(%)	変更可能な処方せんの割合平均	変更可能な処方せんをジェネリックに変更した割合	実際に「ジェネリック医薬品」に変更した割合
全体	52.3%	30.3%	15.8%
病院・診療所勤務	48.8%	42.6%	20.8%
保険薬局勤務	53.6%	27.5%	14.7%
「ジェネリック医薬品」積極活用派	55.8%	41.3%	23.0%
「ジェネリック医薬品」患者判断派	55.0%	25.7%	14.1%
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	40.4%	14.3%	5.8%
参考：10年10月調査	52.8%	27.2%	14.4%
参考：09年10月調査	52.5%	21.3%	11.2%

【変更可能な処方せん割合】



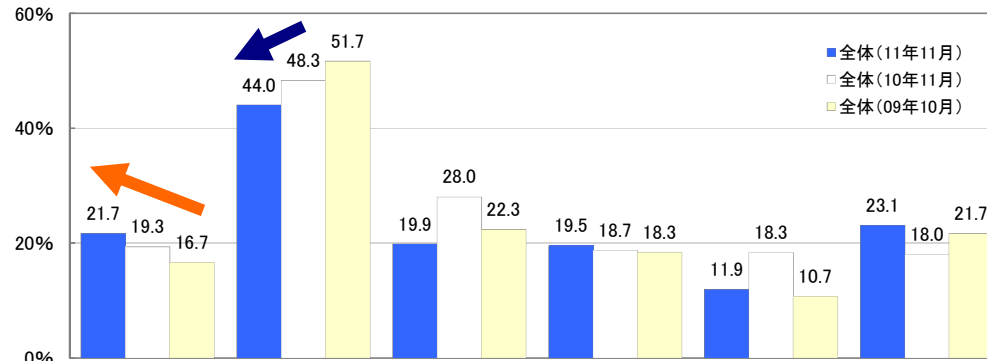
【変更可能な処方せんを「ジェネリック医薬品」に変更した割合】



# 変更可能な処方せんへの対応～説明の有無～

Q7. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、あなたやあなたのお勤め先では、患者さんに対し、「ジェネリック医薬品」についての説明を行っていますか。ここ最近1ヶ月以内についてお答えください。(MA)

「患者さんから尋ねられたら説明する」が44.0%でトップだが、前回より低下し、「常に説明している」が21.7%で、増加している。



(%)	N	常に説明している	患者さんから尋ねられたら説明する	備蓄しているものは説明している	高額の変更が大きいことによる負担の軽減は説明している	説明に余裕のあるときは	説明はしていない
全体(09年10月)	300	16.7	51.7	22.3	18.3	10.7	21.7
全体(10年11月)	300	19.3	48.3	28.0	18.7	18.3	18.0
全体(11年11月)	277	21.7	44.0	19.9	19.5	11.9	23.1
病院・診療所	81	4.9	30.9	4.9	4.9	4.9	58.0
保険薬局	196	28.6	49.5	26.0	25.5	14.8	8.7
「ジェネリック医薬品」積極活用派	116	33.6	29.3	22.4	19.8	14.7	23.3
「ジェネリック医薬品」患者判断派	122	16.4	62.3	22.1	22.1	10.7	10.7
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	39	2.6	30.8	5.1	10.3	7.7	61.5

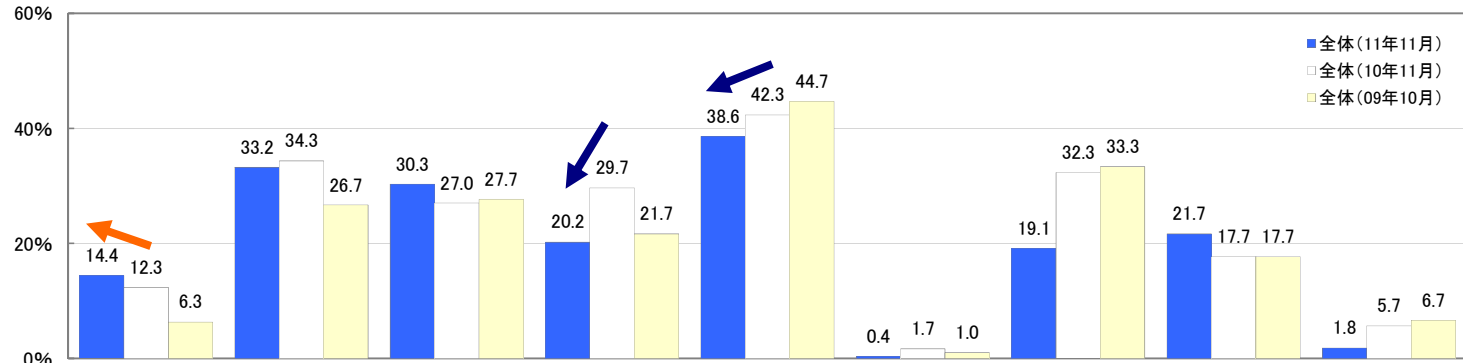
は全体より10Pt以上

は全体より10Pt以下

# 変更可能な処方せんへの対応

Q8. ジェネリック医薬品への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、あなたやあなたのお勤め先ではどのような対応をとっておられますか。あてはまるものを全てお答えください。(MA)

前回同様、「患者さんから尋ねられたら説明して選んでもらう」が38.6%でトップだが、前回より下がり「なるべく勧める」が増加している。また、「情報を提供し、患者に選んでもらう」は前回より大幅に低下。



(%)	N	なるべくジェネリック医薬品を勧める	準備しているものを勧める	負担が大きくなることによる減額を勧める	ジェネリック医薬品の意味や新薬の選んでもらう	患者さんから尋ねられたら、ジェネリック医薬品の違いを説明し、新しい情報も提供し、患者さんに選んでもらう	なるべく新薬を勧める	次回からの切り替えにかかる場合は	何もせず、これまで通りの薬を	その他
全体(09年10月)	300	6.3	26.7	27.7	21.7	44.7	1.0	33.3	17.7	6.7
全体(10年11月)	300	12.3	34.3	27.0	29.7	42.3	1.7	32.3	17.7	5.7
全体(11年11月)	277	14.4	33.2	30.3	20.2	38.6	0.4	19.1	21.7	1.8
病院・診療所	81	9.9	11.1	16.0	6.2	13.6	1.2	2.5	54.3	6.2
保険薬局	196	16.3	42.3	36.2	26.0	49.0	0.0	26.0	8.2	0.0
「ジェネリック医薬品」積極活用派	116	29.3	44.8	38.8	25.0	25.0	0.0	19.0	20.7	3.4
「ジェネリック医薬品」患者判断派	122	4.9	31.1	27.0	18.9	57.4	0.0	22.1	11.5	0.0
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	39	0.0	5.1	15.4	10.3	20.5	2.6	10.3	56.4	2.6

は全体より10Pt以上

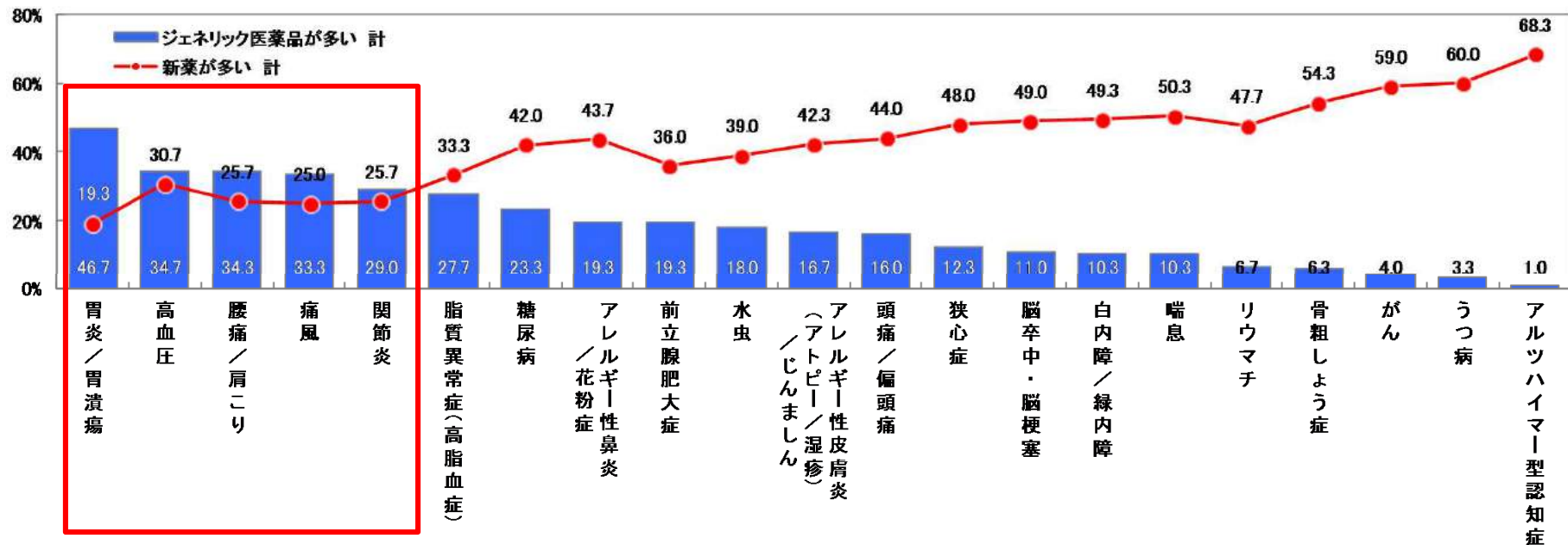
は全体より10Pt以下

## 「ジェネリック医薬品」を調剤することの多い疾患（全体対象）

Q9.「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、以下に挙げた疾患の薬について、「ジェネリック医薬品」を調剤することと、新薬を調剤することの、どちらが多いですか。(SA)

「ジェネリック医薬品」を調剤することの多い疾患は、  
全体では「胃炎／胃潰瘍」「高血圧」「腰痛／肩こり」「痛風」「関節炎」となっている。

【全体(N=300)】

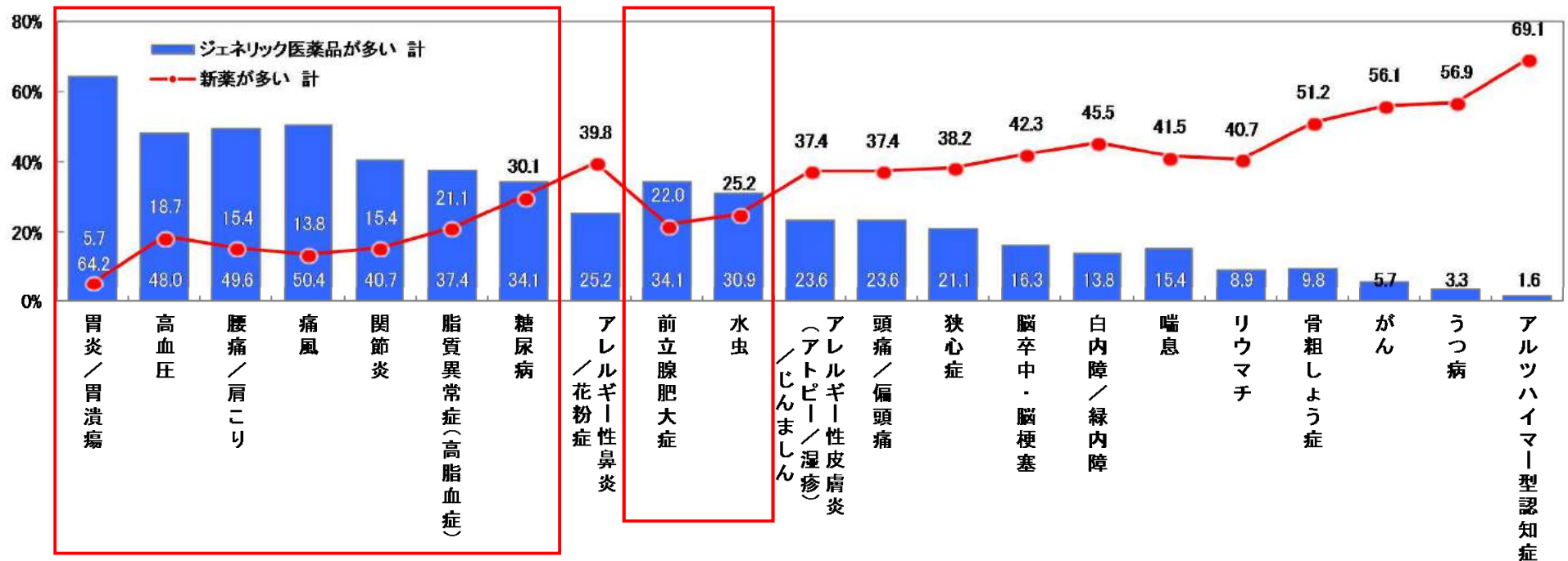


## 「ジェネリック医薬品」を調剤することの多い疾患（「ジェネリック医薬品」積極活用派対象）

Q9. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、以下に挙げた疾患の薬について、「ジェネリック医薬品」を調剤することと、新薬を調剤することの、どちらが多いですか。(SA)

「ジェネリック医薬品」を調剤することの多い疾患は、積極活用派においては、全体ベースの「胃炎／胃潰瘍」「高血圧」「腰痛／肩こり」「痛風」「関節炎」に加え、「脂質異常症」「糖尿病」「前立腺肥大症」「水虫」が30%以上で高くなっている。

【「ジェネリック医薬品」積極活用派(N=123)】





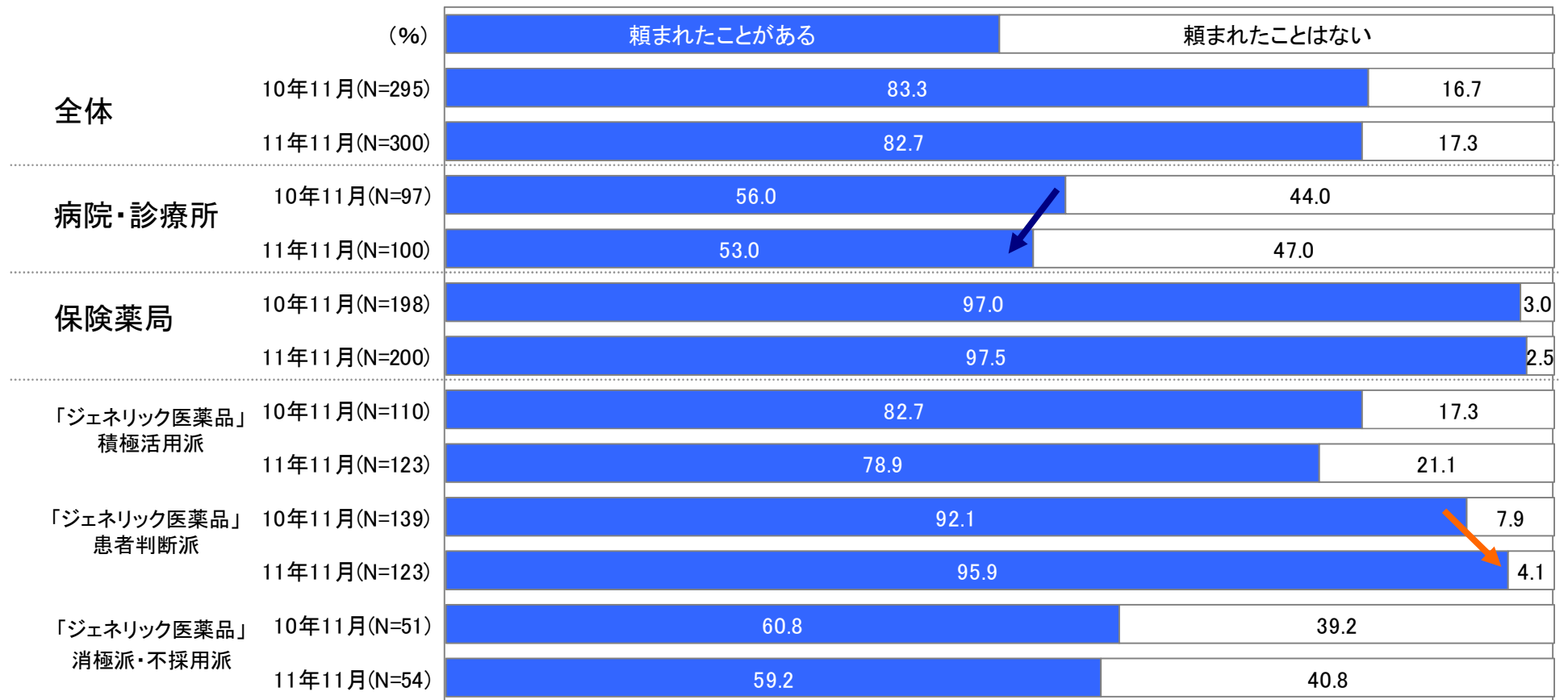
# 「ジェネリック医薬品」を調剤(処方)依頼された経験

Q10. 2008年4月以降、患者さんから「ジェネリック医薬品を調剤(処方)して欲しい」と頼まれたことはありますか。(SA)

処方依頼された経験は、82.7%で前回から横ばい。

病院・診療所でのスコアが3.0Ptのダウンとなった。

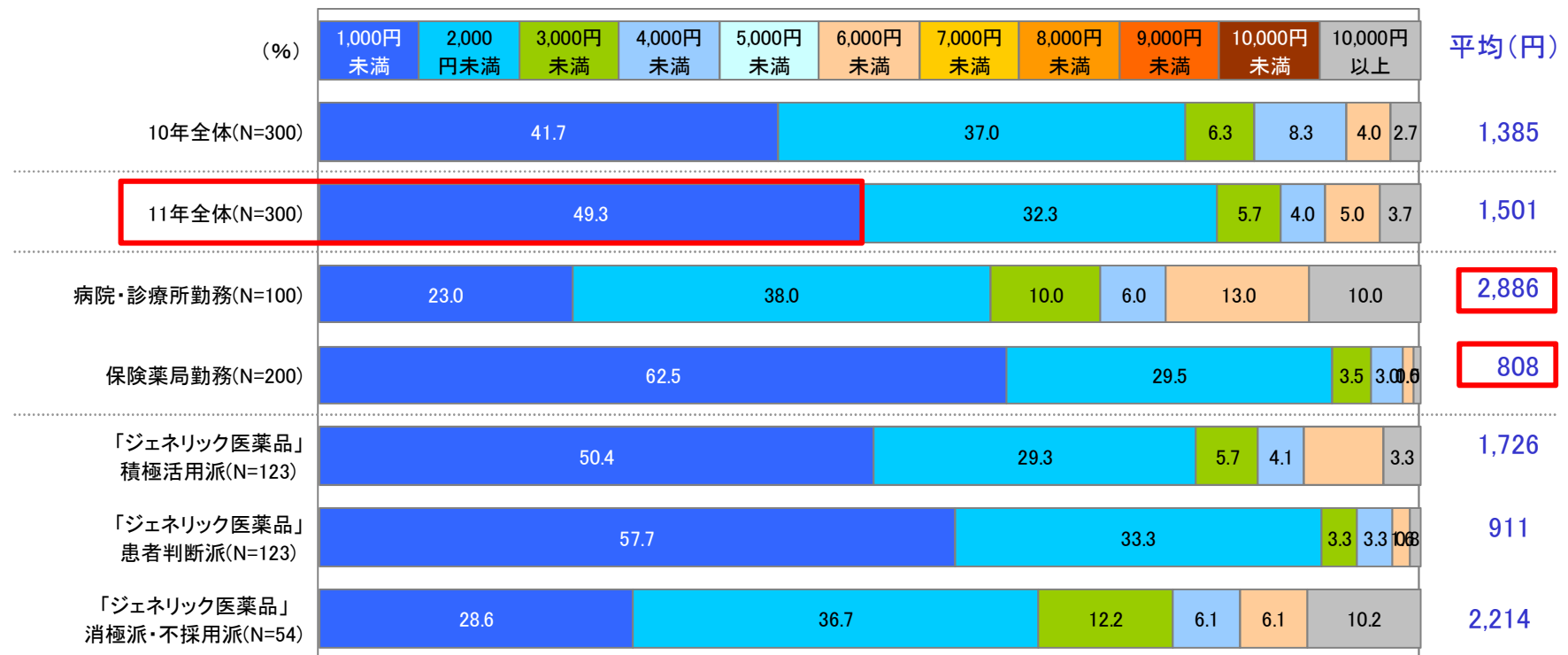
「ジェネリック医薬品」患者判断派では頼まれた経験が、前回より3.8Ptアップしている。



## 勧めやすいダウン金額

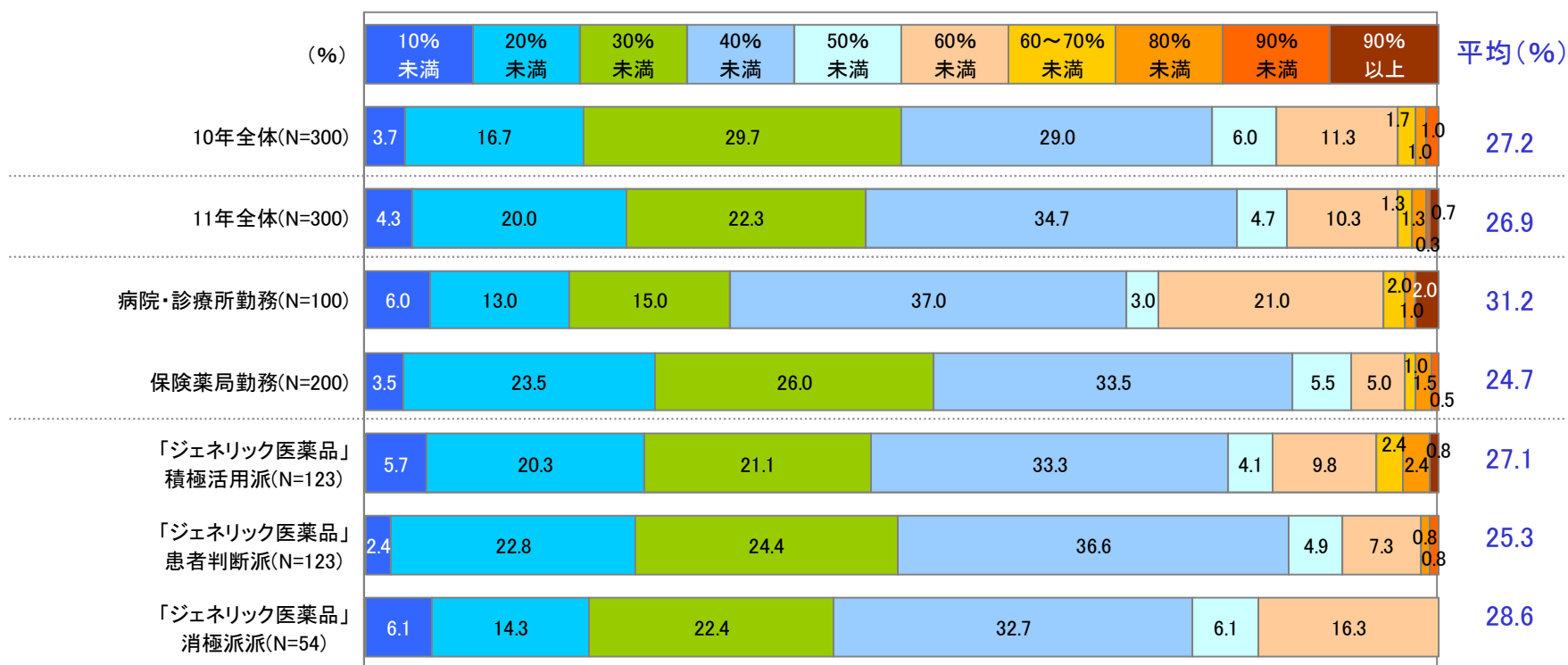
Q11. 患者さんの薬代の負担額が、新薬と比べてどの位安くなるケースであれば、患者さんに「ジェネリック医薬品」を勧めやすいですか。1ヶ月当たり金額として何円安くなる場合と、率として何%安くなる場合、それぞれお答えください。(FA)

「1,000円未満」が49.3%で最も多く、次いで「1,000～2,000円未満」が32.3%であり、平均金額は1,501円となっている。平均金額を比較すると、保険薬局は808円、病院・診療所は2,886円となっており、大きな差が見受けられた。



Q11. 患者さんの薬代の負担額が、新薬と比べてどの位安くなるケースであれば、患者さんに「ジェネリック医薬品」を勧めやすいですか。1ヶ月当たり金額として何円安くなる場合と、率として何%安くなる場合、それぞれお答えください。(FA)

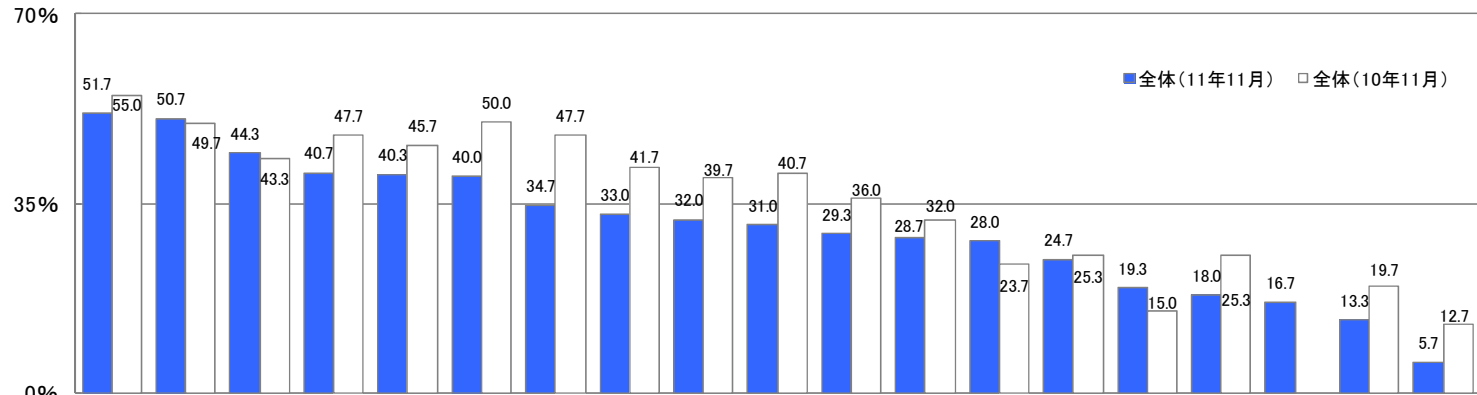
全体では「30～40%未満」が34.7%で最も高くなっており、平均は26.9%であった。  
「ジェネリック医薬品」活用区分による差はそれほど見受けられなかった。



# 「ジェネリック医薬品」が普及するために必要なこと

Q12. 今後、「ジェネリック医薬品」が普及していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(SA)

上位3項目は「安定供給」51.7%、「医師が理解を深める」50.7%、「利益が確保できる薬価制度」44.3%となっている。



(%)	N	安定供給	医師が「ジェネリック医薬品」に対する理解を深める	確保できる薬価制度の導入	ジェネリック医薬品に切り替えても利益を確保できる	より高品質な製品の開発・製造が取り組む	品質を保証する	国がジェネリック医薬品の品質を保証する	ジェネリック医薬品メーカーに対する信頼感が上がる	在庫問題などを解決するため薬局の地域連携体制を整える	ジェネリック医薬品メーカーからの情報提供を充実させる	制度に取り組む	国が使用を促進することを知るようになる	患者が「ジェネリック医薬品」の採用する	大学病院など大病院が啓発活動に取り組む	国が国民に対する薬剤師が「ジェネリック医薬品」に対する理解を深める	大幅な改定	ジェネリック医薬品の薬価の	製薬メーカーの再編・統合	説明しやすい体制等(パンフレットやツール等)	ジェネリック医薬品に医師や薬剤師が患者に新薬メーカーが積極的に使用促進に地域行政が	その他の
全体(10年11月)	300	55.0	49.7	43.3	47.7	45.7	50.0	47.7	41.7	39.7	40.7	36.0	32.0	23.7	25.3	15.0	25.3	16.7	13.3	19.7	12.7	
全体(11年11月)	300	51.7	50.7	44.3	40.7	40.3	40.0	40.0	34.7	33.0	32.0	31.0	29.3	28.7	28.0	24.7	19.3	18.0	16.7	13.3	5.7	
病院・診療所	100	58.0	40.0	44.0	49.0	41.0	40.0	26.0	41.0	37.0	21.0	30.0	28.0	22.0	25.0	20.0	20.0	22.0	11.0	4.0		
保険薬局	200	48.5	56.0	44.5	36.5	40.0	40.0	39.0	29.0	29.5	36.0	29.0	29.0	31.0	24.5	19.0	17.0	14.0	14.5	6.5		
「ジェネリック医薬品」積極活用派	123	52.0	48.0	44.7	41.5	46.3	37.4	30.9	34.1	42.3	37.4	33.3	33.3	28.5	25.2	18.7	17.1	18.7	12.2	7.3		
「ジェネリック医薬品」患者判断派	123	48.8	62.6	44.7	35.8	41.5	40.7	41.5	29.3	29.3	32.5	30.9	29.3	26.8	26.8	20.3	17.1	12.2	17.1	4.1		
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	54	57.1	30.6	42.9	51.0	24.5	44.9	30.6	38.8	16.3	14.3	14.3	18.4	30.6	18.4	18.4	24.5	22.4	8.2	6.1		

は全体より10Pt以上

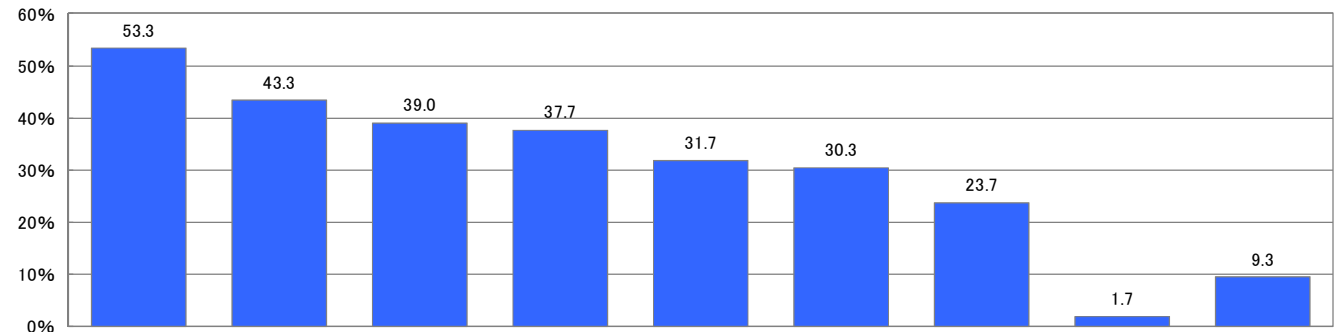
は全体より10Pt以下



# 「ジェネリック医薬品」使用促進のために医師に望むこと

Q13. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、医師に何を望みますか。(MA)

「ジェネリック医薬品の銘柄指定をしないでほしい」が最も高く、53.3%であった。次いで「患者が希望している場合変更不可の署名を行わないでほしい」が43.3%、「疑義紹介について誠実に対応」が39.0%と続く。



(%)	N	ジェネリック医薬品の銘柄指定をしないでほしい	患者が希望している場合、変更不可の署名を行わないでほしい	疑義紹介について誠実に対応してほしい	ジェネリック医薬品に対して理解を深めてほしい	一般名処方をしてほしい	ジェネリック医薬品への薬剤師を信頼してほしい	患者へ積極的に働きかけてほしい	その他	医師に望むことは特にない
全体	300	53.3	43.3	39.0	37.7	31.7	30.3	23.7	1.7	9.3
病院・診療所	100	29.0	23.0	36.0	35.0	24.0	25.0	15.0	0.0	23.0
保険薬局	200	65.5	53.5	40.5	39.0	35.5	33.0	28.0	2.5	2.5
「ジェネリック医薬品」積極活用派	123	50.4	48.8	39.8	43.9	31.7	37.4	30.9	0.8	7.3
「ジェネリック医薬品」患者判断派	123	61.0	49.6	40.7	36.6	31.7	28.5	24.4	2.4	3.3
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	54	46.9	18.4	36.7	24.5	34.7	16.3	6.1	2.0	24.5

は全体より10Pt以上

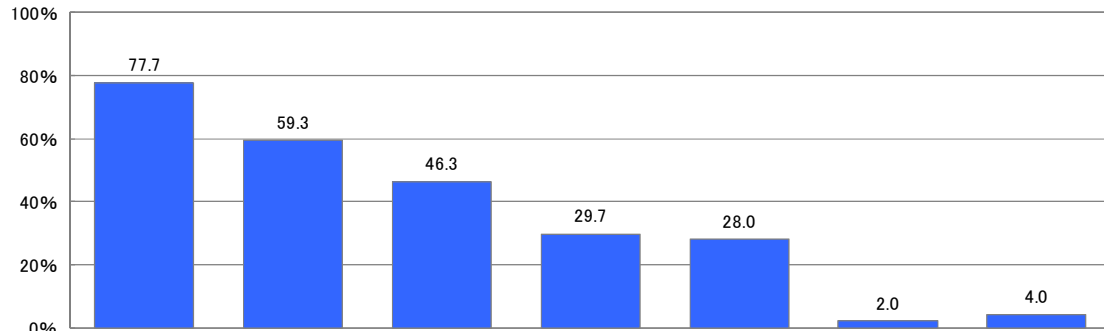
は全体より10Pt以下



# 「ジェネリック医薬品」使用促進のために製薬メーカーに望むこと

Q14. 「ジェネリック医薬品」の使用を進める上で、メーカーや卸業者に何を望みますか。(MA)

「安定的に供給できる体制としてほしい」が最も高く、77.7%であった。  
次いで「分割や少量での販売」が59.3%、「販売名をわかりやすく」が46.3%と続く。



(%)	N	安定的に供給できる体制としてほしい	分割や少量での販売をしてほしい	販売名をわかりやすく	M/Rを増やしたり卸の営業担当者をしてほしい	個別の照会に対応してほしい	その他	メーカーや卸業者に望むこと
全体	300	77.7	59.3	46.3	29.7	28.0	2.0	4.0
病院・診療所	100	74.0	42.0	48.0	38.0	35.0	1.0	9.0
保険薬局	200	79.5	68.0	45.5	25.5	24.5	2.5	1.5
「ジェネリック医薬品」積極活用派	123	78.0	56.9	54.5	30.1	30.9	1.6	4.1
「ジェネリック医薬品」患者判断派	123	78.9	66.7	42.3	26.8	22.8	2.4	0.8
「ジェネリック医薬品」消極派・不採用派	54	73.5	49.0	38.8	34.7	30.6	0.0	10.2

は全体より10Pt以下

# 「国の医療費増大」の問題に対する危機感

Q15. 最近、新聞やテレビなどで「国の医療費増大」による皆保険制度の是非や、企業健保組合の赤字などの問題がクローズアップされていますが、あなたはこの「国の医療費増大」の問題について危機感を感じますか？(SA)

全体の47.0%が「とても感じる」と答えており、「少し感じる」を含めると、85.3%となっている。  
 病院診療所と保険薬局で大きな差は見られない。  
 また、積極活用派の方が、危機意識が高くなっている。

